

広島市立小・中学校適正配置に関する市民アンケート報告書

平成21年(2009年)3月

広島市立学校適正配置等のあり方に関する検討協力者会議

目 次

・調査の概要	1
1．調査の目的	1
2．調査内容	1
3．調査方法	1
4．回収結果	2
5．集計分析（単純集計・クロス集計）	2
・調査結果（アンケート単純集計結果）	3
1．回答者の属性について	3
(1) 回答者の性別	3
(2) 回答者の年齢	3
(3) 回答者の居住区	3
(4) 小学校通学区域の認識	4
(5) 同居家族における子どもの有無	4
2．望ましい学級規模・学校規模について	5
(1) 小学校の学級人数	5
(2) 小学校の学級数	6
(3) 中学校の学級人数	7
(4) 中学校の学級数	8
3．望ましい通学時間・通学距離・通学方法について	10
(1) 小学生の通学時間	10
(2) 小学生の通学距離	10
(3) 小学生の通学方法	10
(4) 中学生の通学時間	11
(5) 中学生の通学距離	11
(6) 中学生の通学方法	11
4．学校の適正配置について	12
(1) 学校の適正配置に関する意見	12
5．理想とするこれからの広島市のめざす子ども像について	15
(1) 望ましい子どもの将来像	15
・調査結果（アンケートクロス集計結果）	17
1．望ましい学級規模・学校規模について	17
(1) 小学校の学級人数	17
(2) 小学校の学級数	19
(3) 中学校の学級人数	21
(4) 中学校の学級数	24
2．学校の適正配置について	27
(1) 学校の適正配置に関する意見	27
3．理想とするこれからの広島市のめざす子ども像について	37
(1) 望ましい子どもの将来像	37
・調査結果からみる市民の意識	42

．調査の概要

1．調査の目的

本調査では、広島市立小・中学校の適正配置を検討するに当たり、適正配置にかかわる市民の意識を明らかにすることを目的とした。

2．調査内容

調査内容は、以下のとおりであった。

(1) 回答者の属性について

問1 性別について

問2 年齢について

問3 居住区域について

問4 小学校区について

問5 家族(子どもの有無)について

(2) 望ましい学級規模・学校規模について

問6 小学校の学級人数について

問7 小学校の学級数について

問8 中学校の学級人数について

問9 中学校の学級数について

(3) 児童・生徒にとって望ましい通学時間・通学距離・通学方法について

問10 小学生の通学時間について

問11 小学生の通学距離について

問12 小学生の通学方法について

問13 中学生の通学時間について

問14 中学生の通学距離について

問15 中学生の通学方法について

(4) 学校の適正配置について

問16 学校の適正配置について

(5) 理想とするこれからの広島市のめざす子ども像について

問17 広島市のめざす子ども像について

3．調査方法

(1) 作成 広島市立学校適正配置等のあり方に関する検討協力者会議

(2) 対象 広島市に住民票のある成人(平成20年9月1日現在で、満20歳以上)

(3) 抽出 無作為層化抽出法(区別・男女別・年齢階層別比例割当法)
(年齢階層は10歳単位。ただし、70歳以上は1階層とする。)

(4) 人数 2,000人

(5) 期間 平成20年9月4日～9月16日

(6) 方法 郵送によるアンケート発送・回収(回収先 広島市教育委員会 施設課計画担当)

4. 回収結果

- (1) 発送数 2,000
- (2) 未着数 14
- (3) 有効数 1,986 (発送数 - 未着数)
- (4) 回収数 703 (自由記述欄への記入 243件)
- (5) 回収率 35.40% (回収数 / 有効数)
- (6) サンプルング誤差 ±3.6%

5. 集計分析

(1) 単純集計 (全体的傾向の把握)

問1～問17までの各設問について、それぞれ単純に集計をした。

(2) クロス集計 (4つの分類による各分類傾向の把握)

問6、問7、問8、問9、問16、問16-3、問16-5、問17について、次の4つの分類ごとにクロス集計をした。

「回答者居住地域の小学校区」の学校規模別(大規模校学区、標準規模校学区、小規模校学区)による集計

「学齢期(小学生または中学生)の子ども」の有無別による集計

「回答者居住地域の小学校区」の地域特性別(市街地、ニュータウン、農村地域)による集計

「年齢層別」による集計

学齢期(小学生または中学生)の子どもありの集計は、小学生または中学生の子どもと、かつ小学校入学前の子どもまたは高校生以上の子どもなど複数おられる場合でも、学齢期(小学生または中学生)の子どもありで整理している。

アンケート各設問の回答の有無及び回答者居住地域の不明により、クロス集計を行ううえでの分類ができない場合があったため、単純集計とクロス集計の計が一致していない場合がある。

(注) 集計分析における用語の定義

大規模校学区：1学校当たり、19学級以上の小学校区

標準規模校学区：1学校当たり、12学級～18学級の小学校区

小規模校学区：1学校当たり、11学級以下の小学校区

学齢期の子ども：小学生または中学生の子ども

市街地：ニュータウン、農村地域に該当しない地域

ニュータウン：高度経済成長期以降に山間部、丘陵部を住宅団地造成した地域

農村地域：昭和40年代以降に合併した旧町村区域で、学区の大半が都市計画区域外または市街化調整区域(山林を除く)である地域

年齢層別：20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代及び70歳代以上の6階層区分

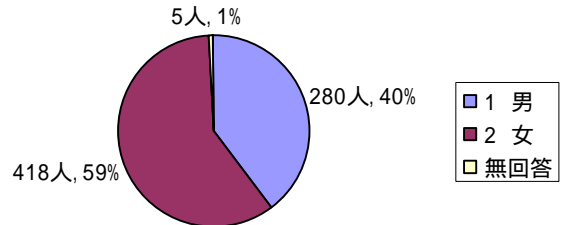
調査結果（アンケート単純集計結果）

1. 回答者の属性について

(1) 回答者の性別

問1 あなたの性別はどちらでしょうか。

	送付数	回答数	回答者分布
1 男	957 人	280 人	39.8%
2 女	1043 人	418 人	59.5%
無回答	-	5 人	0.7%
	2000 人	703 人	100.0%

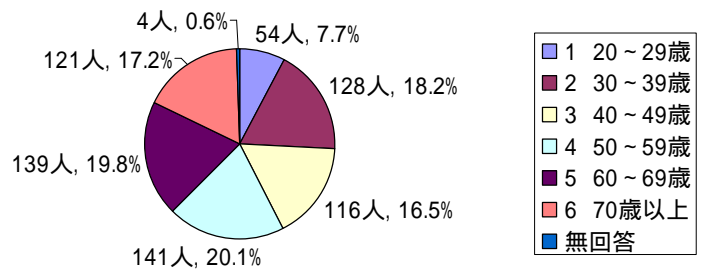


問1の質問で、回答者の性別について尋ねた。
回答者の39.8%が男性、59.5%が女性であり、女性からの回答が多かった。

(2) 回答者の年齢

問2 あなたの年齢はおいくつでしょうか。

	送付数	回答数	回答者分布
1 20～29歳	292 人	54 人	7.7%
2 30～39歳	409 人	128 人	18.2%
3 40～49歳	321 人	116 人	16.5%
4 50～59歳	334 人	141 人	20.1%
5 60～69歳	317 人	139 人	19.8%
6 70歳以上	327 人	121 人	17.2%
無回答	-	4 人	0.6%
	2000 人	703 人	100.0%

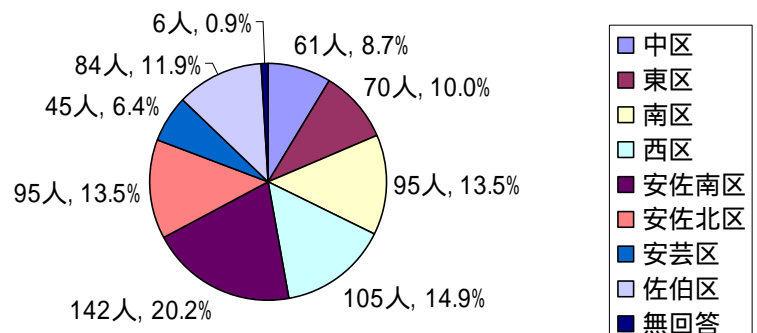


問2の質問で、回答者の年代について尋ねた。
50歳代が20.1%、60歳代が19.8%、30歳代が18.2%、70歳以上が17.2%、40歳代が16.5%、20歳代が7.7%というように、20歳代の回答者が少ないものの、50歳代の回答者を中心に各年齢層から回答があった。

(3) 回答者の居住区

問3 あなたがお住まいの地域について、記載例を参考に記入してください。

	送付数	回答数	回答者分布
中区	224 人	61 人	8.7%
東区	207 人	70 人	10.0%
南区	240 人	95 人	13.5%
西区	317 人	105 人	14.9%
安佐南区	375 人	142 人	20.2%
安佐北区	269 人	95 人	13.5%
安芸区	135 人	45 人	6.4%
佐伯区	233 人	84 人	11.9%
無回答	-	6 人	0.9%
計	2000 人	703 人	100.0%

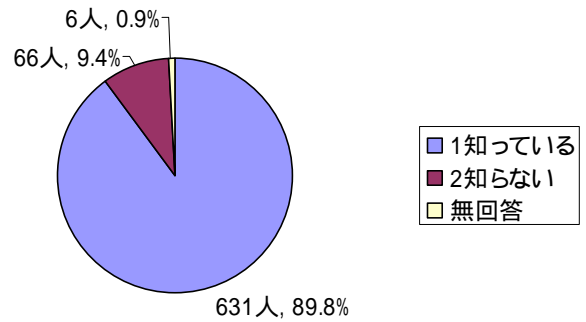


問3の質問で、自分の住む地域について尋ねた。各区からほぼ人口に比例した回答を得た。

(4) 小学校通学区域の認識

問4 あなたがお住まいの地域は、どの小学校に通学する区域か、ご存知ですか。

1知っている	631人	89.8%
2知らない	66人	9.4%
無回答	6人	0.9%
	703人	100.0%

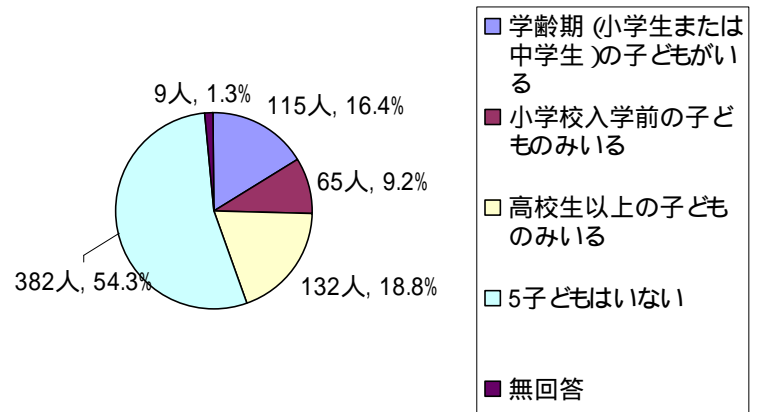


問4の質問で、居住地域の児童が通学する小学校区を尋ねた。知っているという回答が約9割を占めている。

(5) 同居家族における子どもの有無

問5 あなたが現在、一緒にお暮らしのご家族の中に、お子様はおられますか。(複数回答可)

学齢期(小学生または中学生)の子どもがいる。	115人	16.4%
小学校入学前の子どものみいる。	65人	9.2%
高校生以上の子どものみいる。	132人	18.8%
子どもはいない。	382人	54.3%
無回答	9人	1.3%
	703人	100.0%



(%は、回答数703人に対する比率)

問5の質問で、一緒に暮らしている家族の中に、小学校に入学する前の子ども、学齢期(小学生または中学生)の子ども、高校生以上の子どものみいるかどうかについて尋ねた。(複数回答可)

「現在、一緒に暮らす家族の中に子どもはいない」という回答が54.3%であり、「子どもがいる」という回答は44.4%であった。

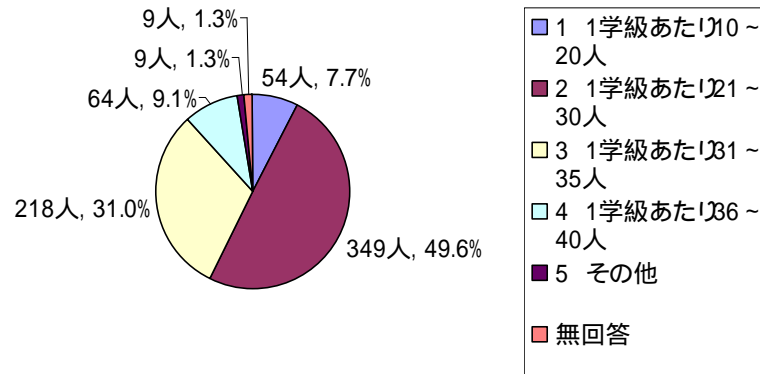
子どもがいるという回答の内訳は、「学齢期(小学生または中学生)の子どもがいる」16.4%、「小学校入学前の子どものみいる」9.2%、「高校生以上のこどものみいる」18.8%であった。

2. 望ましい学級規模・学校規模について

(1) 小学校の学級人数

問6 小学校の児童数は、法令によると、「1学級40人以下とする」となっていますが、どの程度の学級人数が望ましいと思われますか、1つお答えください。

1 1学級あたり10～20人	54人	7.7%
2 1学級あたり21～30人	349人	49.6%
3 1学級あたり31～35人	218人	31.0%
4 1学級あたり36～40人	64人	9.1%
5 その他	9人	1.3%
無回答	9人	1.3%
	703人	100.0%

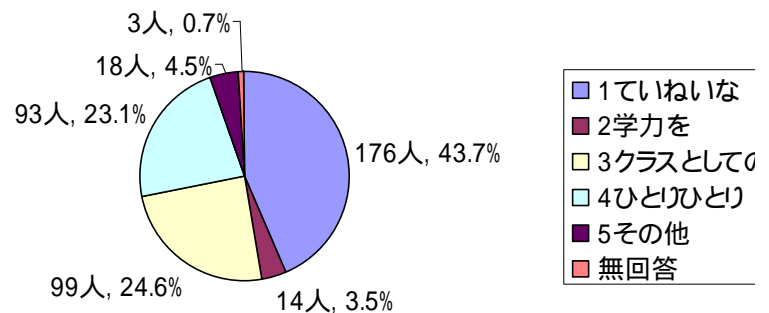


問6の質問で、小学校で望ましいと思う1学級当たりの人数について尋ねた。

「1学級あたり21～30人」が49.6%と最も多く、続いて「1学級あたり31～35人」が31.0%の順となっている。

問6-2 問6で「1学級あたり10人～20人」又は「1学級あたり21人～30人」と答えられた方は、そう思われる理由を1つお答えください。

1 ていねいな学習指導を受けることができる。	176人	43.7%
2 学力を伸ばすことができる。	14人	3.5%
3 クラスとしての一体感が生まれる。	99人	24.6%
4 ひとりひとりが大切にされる。	93人	23.1%
5 その他	18人	4.5%
無回答	3人	0.7%
	403人	100.0%

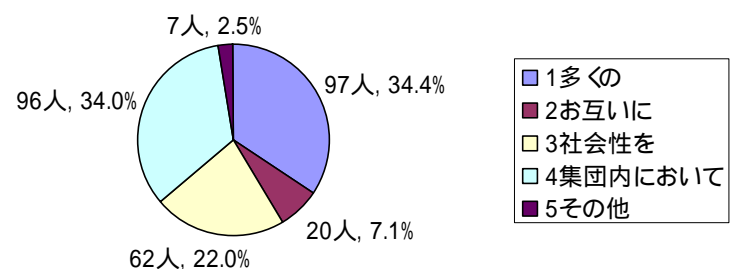


問6-2の質問で、小学校で望ましい学級人数は、「1学級あたり10人～20人」又は「1学級あたり21人～30人」と答えた理由を尋ねた。

「ていねいな学習指導を受けることができる」が43.7%と最も多く、続いて「クラスとしての一体感が生まれる」が24.6%、「ひとりひとりが大切にされる」が23.1%の順となっている。

問6-3 問6で「1学級あたり31人～35人」又は「1学級あたり36人～40人」と答えられた方は、そう思われる理由を1つお答えください。

1 多くの児童とふれあうことができる。	97人	34.4%
2 お互いに学力を高めあうことができる。	20人	7.1%
3 社会性を身につける機会に恵まれる。	62人	22.0%
4 集団内において色々な役割分担を経験できる。	96人	34.0%
5 その他	7人	2.5%
	282人	100.0%

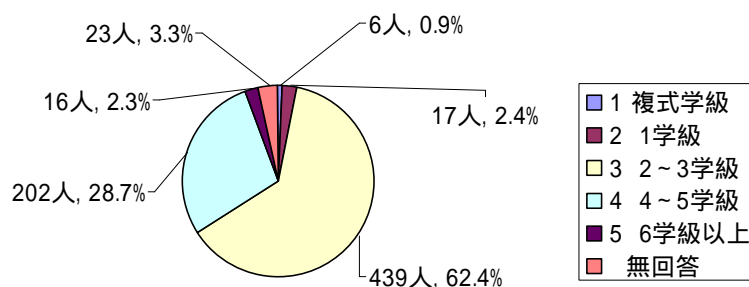


問6 - 3の質問で、小学校で望ましい学級人数は、「1学級当たり31人～35人」又は「1学級当たり36人～40人」と答えた理由を尋ねた。
 「多くの児童とふれあうことができる」が34.4%、続いて「集団内において色々な役割分担を経験できる」が34.0%、「社会性を身につける機会に恵まれる」が22.0%の順となっている。

(2) 小学校の学級数

問7 小学校の学級数は、学校教育法施行規則によると、「1学年当たり2～3学級」(1学校当たり12学級～18学級)を標準とされていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われますか、1つお答えください。

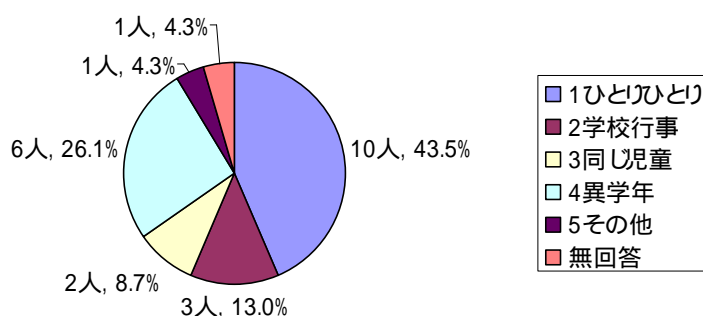
1 複式学級 (複数学年が1学級に含まれる)	6人	0.9%
2 1学年当たり1学級	17人	2.4%
3 1学年当たり2～3学級	439人	62.4%
4 1学年当たり4～5学級	202人	28.7%
5 1学年当たり6学級以上	16人	2.3%
無回答	23人	3.3%
	703人	100.0%



問7の質問で、小学校で望ましいと思う1学年当たりの学級数について尋ねた。
 「1学年当たり2～3学級」が62.4%と最も多く、続いて「1学年当たり4～5学級」が28.7%の順となっている。

問7 - 2 問7で「複式学級」又は「1学年当たり1学級」と答えられた方は、そう思われる理由を1つお答えください。

1 ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができる。	10人	43.5%
2 学校行事などでひとりひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる。	3人	13.0%
3 同じ児童とずっと同じクラスで過ごせ、児童同士が親密になれる。	2人	8.7%
4 異学年との交流があり、学年を越えた友達ができやすい。	6人	26.1%
5 その他	1人	4.3%
無回答	1人	4.3%
	23人	100.0%

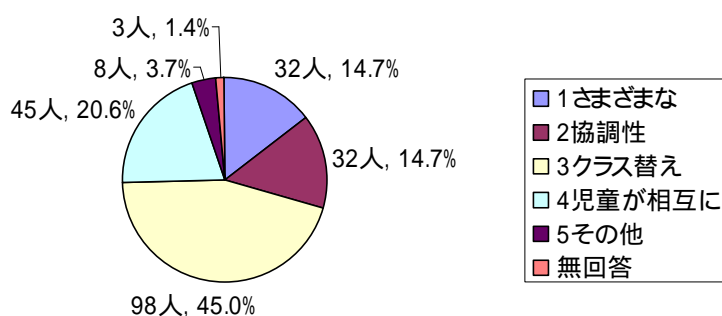


問7 - 2の質問で、小学校で望ましい学級数は、「複式学級」又は「1学年当たり1学級」と答えた理由を尋ねた。
 「ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができる」が43.5%と最も多く、続いて「異学年との交流があり、学年を越えた友達ができやすい」が26.1%の順となっている。

問7 - 3 問7で「1学年当たり4～5学級」又は「1学年当たり6学級以上」と答えられた方は、そう思わ

れる理由を1つお答えください。

1 さまざまな個性をもつ先生と出会える。	32人	14.7%
2 協調性を養う機会に恵まれる。	32人	14.7%
3 クラス替えがあり、たくさんの友達ができる。	98人	45.0%
4 児童が相互に刺激しあい、切磋琢磨(せっさたくま)する機会が増える。	45人	20.6%
5 その他	8人	3.7%
無回答	3人	1.4%
	218人	100.0%



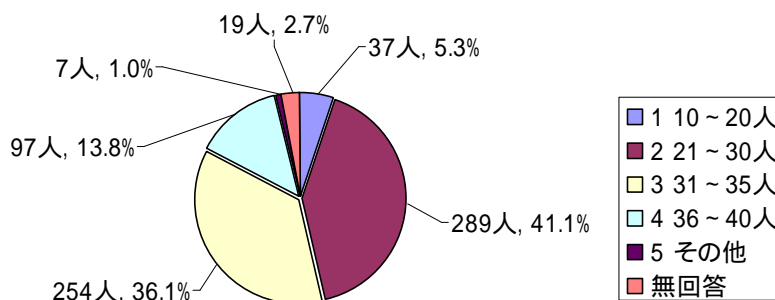
問7 - 3の質問で、小学校で望ましい学級数は、「1学年当たり4～5学級」又は「1学年当たり6学級以上」と答えた理由を尋ねた。

「クラス替えがあり、たくさんの友達ができる」が45.0%と最も多く、続いて「児童が相互に刺激しあい、切磋琢磨(せっさたくま)する機会が増える」が20.6%の順となっている。

(3) 中学校の学級人数

問8 中学校の生徒数は、法令によると、「1学級40人以下とする」となっていますが、どの程度の学級人数が望ましいと思われますか、1つお答えください。

1 10～20人	37人	5.3%
2 21～30人	289人	41.1%
3 31～35人	254人	36.1%
4 36～40人	97人	13.8%
5 その他	7人	1.0%
無回答	19人	2.7%
	703人	100.0%

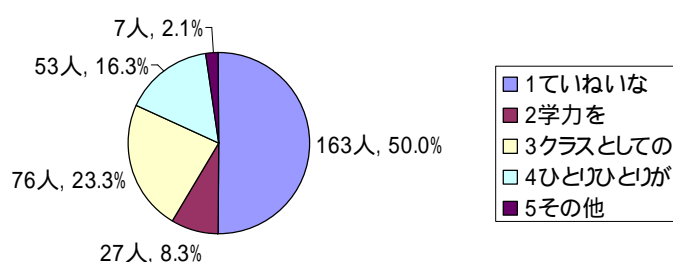


問8の質問で、中学校で望ましいと思う1学級当たりの人数について尋ねた。

「1学級当たり21～30人」が41.1%と最も多く、続いて「1学級当たり31～35人」が36.1%の順となっている。

問8 - 2 問8で「1学級当たり10人～20人」又は「1学級当たり21人～30人」と答えられた方は、そう思われる理由を1つお答えください。

1 ていねいな学習指導を受けることができる。	163人	50.0%
2 学力を伸ばすことができる。	27人	8.3%
3 クラスとしての一体感が生まれる。	76人	23.3%
4 ひとりひとりが大切にされる。	53人	16.3%
5 その他	7人	2.1%
	326人	100.0%



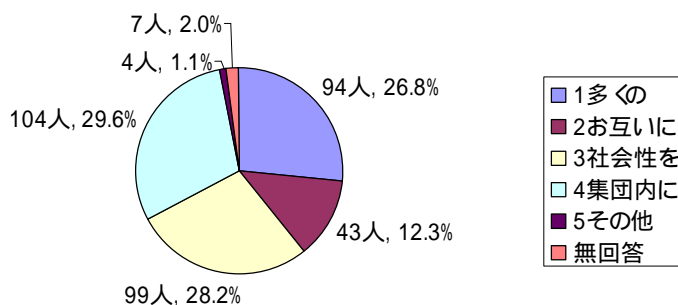
問8 - 2の質問で、中学校で望ましい学級人数は、「1学級当たり10人～20人」又は「1学級当たり21人～30人」と答えた理由を1つお答えください。

0人」と答えた理由を尋ねた。

「ていねいな学習指導を受けることができる」が50.0%と最も多く、続いて「クラスとしての一体感が生まれる」が23.3%、「ひとりひとりが大切にされる」が16.3%の順となっている。

問8 - 3 問8で「1学級当たり31人～35人」又は「1学級当たり36人～40人」と答えられた方は、そう思われる理由を1つお答えください。

1 多くの生徒とふれあうことができる。	94人	26.8%
2 お互いに学力を高めあうことができる。	43人	12.3%
3 社会性を身につける機会に恵まれる。	99人	28.2%
4 集団内において色々な役割分担を経験できる。	104人	29.6%
5 その他	4人	1.1%
無回答	7人	2.0%
	351人	100.0%



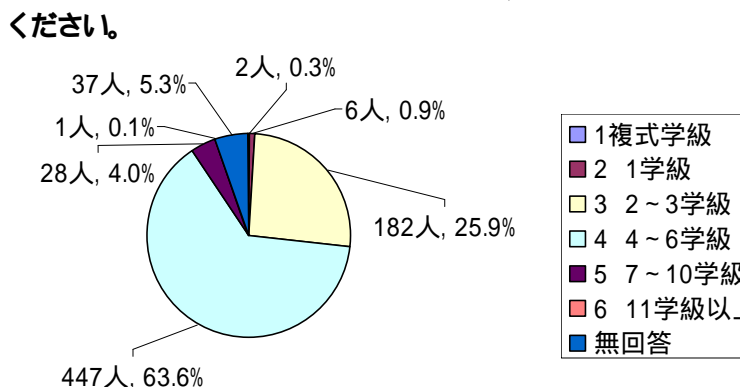
問8 - 3の質問で、中学校で望ましい学級人数は、「1学級当たり31人～35人」又は「1学級当たり36人～40人」と答えた理由を尋ねた。

「集団内において色々な役割分担を経験できる」が29.6%、「社会性を身につける機会に恵まれる」が28.2%、「多くの生徒とふれあうことができる」が26.8%の順となっている。

(4) 中学校の学級数

問9 中学校の学級数は、学校教育法施行規則によると、「1学年当たり4～6学級」(1学校当たり12学級～18学級)を標準とするとなつていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われませんか、1つお答えください。

1 複式学級(複数学年が1学級に含まれる)	2人	0.3%
2 1学年当たり1学級	6人	0.9%
3 1学年当たり2～3学級	182人	25.9%
4 1学年当たり4～6学級	447人	63.6%
5 1学年当たり7～10学級	28人	4.0%
6 1学年当たり11学級以上	1人	0.1%
無回答	37人	5.3%
	703人	100%

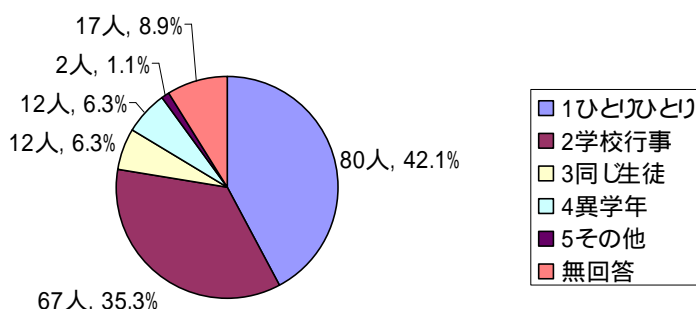


問9の質問で、中学校で望ましいと思う1学年当たりの学級数について尋ねた。

「1学年当たり4～6学級」が63.6%と最も多く、続いて「1学年当たり2～3学級」が25.9%の順となっている。

問9 - 2 問9で「複式学級」又は「1学年当たり1学級」又は「1学年当たり2～3学級」と答えられた方は、そう思われる理由を1つお答えください。

1 ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができる。	80人	42.1%
2 学校行事などでひとりひとりに活動の場があり、かつ活動時間が十分取れる。	67人	35.3%
3 同じ生徒とずっと同じクラスで過ごせ、生徒同士が親密になれる。	12人	6.3%
4 異学年との交流があり、学年を越えた友達ができやすい。	12人	6.3%
5 その他	2人	1.1%
無回答	17人	8.9%
	190人	100.0%

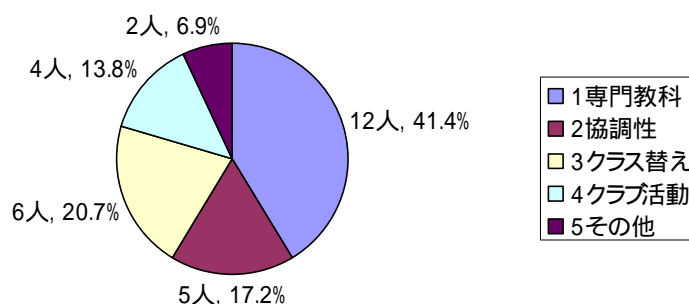


問9 - 2の質問で、中学校で望ましい学級数は、「複式学級」又は「1学年当たり1学級」又は「1学年当たり2～3学級」と答えた理由を尋ねた。

「ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができる」が42.1%と最も多く、続いて「学校行事などでひとりひとりに活動の場があり、かつ、活動時間が十分取れる」が35.3%の順となっている。

問9 - 3 問9で「1学年当たり7～10学級」又は「1学年当たり11学級以上」と答えられた方は、そう思われる理由を1つお答えください。

1 専門教科の先生に教えてもらえる機会が増える。	12人	41.4%
2 協調性を養う機会に恵まれる。	5人	17.2%
3 クラス替えがあり、たくさんの友達ができる。	6人	20.7%
4 クラブ活動や選択教科の選択の幅が広がる。	4人	13.8%
5 その他	2人	6.9%
	29人	100.0%



問9 - 3の質問で、中学校で望ましい学級数は、「1学年当たり7～10学級」又は「1学年当たり11学級以上」と答えた理由を尋ねた。

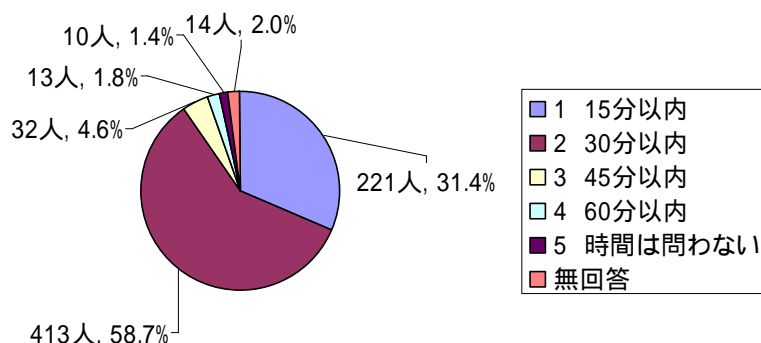
「専門教科の先生に教えてもらえる機会が増える」が41.4%と最も多く、続いて「クラス替えがあり、たくさんの友達ができる」が20.7%の順となっている。

3. 望ましい通学時間・通学距離・通学方法について

(1) 小学生の通学時間

問10 小学生の通学時間は、どの程度の時間が望ましいと思われるか、1つお答えください。

1 15分以内	221人	31.4%
2 30分以内	413人	58.7%
3 45分以内	32人	4.6%
4 60分以内	13人	1.8%
5 時間は問わない	10人	1.4%
無回答	14人	2.0%
	703人	100.0%



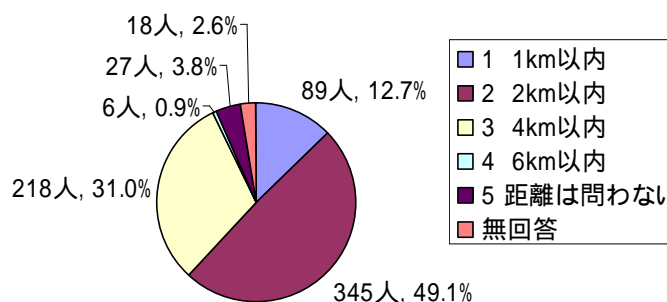
問10の質問で、小学生にとって望ましいと思われる通学時間について尋ねた。

「30分以内」が58.7%と最も多く、続いて「15分以内」が31.4%の順となっている。

(2) 小学生の通学距離

問11 小学校にあつては通学距離は、法令によると、「おおむね4キロメートル以内」であることとなっていますが、どの程度の距離が望ましいと思われるか、1つお答えください。

1 1km以内	89人	12.7%
2 2km以内	345人	49.1%
3 4km以内	218人	31.0%
4 6km以内	6人	0.9%
5 距離は問わない	27人	3.8%
無回答	18人	2.6%
	703人	100.0%



問11の質問で、小学生にとって望ましいと思われる通学距離について尋ねた。

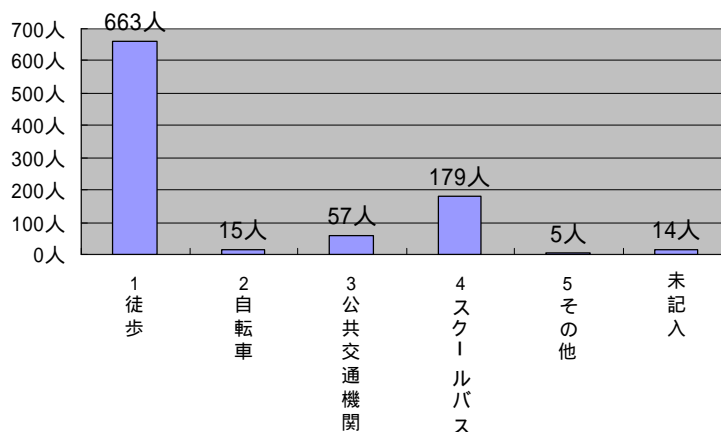
「2 km以内」が49.1%と最も多く、続いて「4 km以内」が31.0%の順となっている。

(3) 小学生の通学方法

問12 小学生の通学方法として、どのような方法が望ましいと思われるか。(複数回答可)

1 徒歩	663人	94.3%
2 自転車	15人	2.1%
3 公共交通機関	57人	8.1%
4 スクールバス	179人	25.5%
5 その他	5人	0.7%
無回答	14人	2.0%

(%は、回答数703人に対する比率)



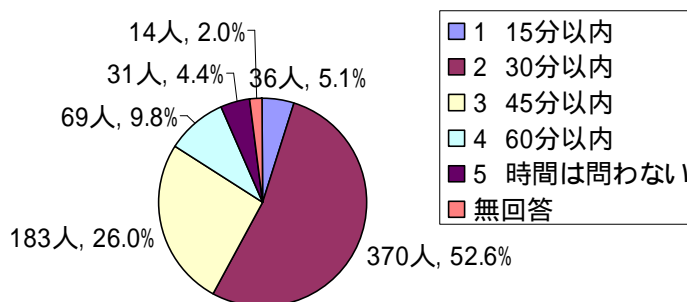
問12の質問で、小学生にとって望ましいと思われる通学方法について尋ねた。(複数回答可)

「徒歩」が94.3%と回答者の9割以上を占めている。続いて「スクールバス」が25.5%の順となっている。

(4) 中学生の通学時間

問13 中学生の通学時間は、どの程度の時間が望ましいと思われるか、1つお答えください。

1 15分以内	36人	5.1%
2 30分以内	370人	52.6%
3 45分以内	183人	26.0%
4 60分以内	69人	9.8%
5 時間は問わない	31人	4.4%
無回答	14人	2.0%
	703人	100.0%

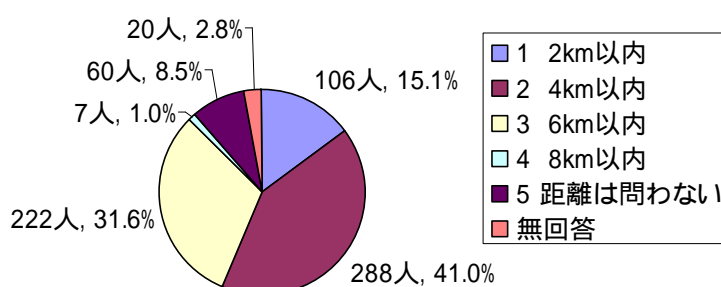


問13の質問で、中学生にとって望ましいと思われる通学時間について尋ねた。「30分以内」が52.6%と最も多く、続いて「45分以内」が26.0%の順となっている。

(5) 中学生の通学距離

問14 中学校にあっては通学距離は、法令によると、「おおむね6キロメートル以内」であることとなっていますが、どの程度の距離が望ましいと思われるか、1つお答えください。

1 2km以内	106人	15.1%
2 4km以内	288人	41.0%
3 6km以内	222人	31.6%
4 8km以内	7人	1.0%
5 距離は問わない	60人	8.5%
無回答	20人	2.8%
	703人	100.0%

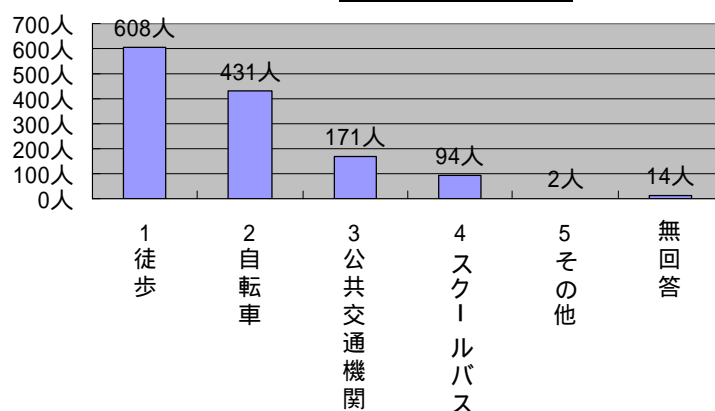


問14の質問で、中学生にとって望ましいと思われる通学距離について尋ねた。「4km以内」が41.0%と最も多く、続いて「6km以内」が31.6%の順となっている。

(6) 中学生の通学方法

問15 中学生の通学方法として、どのような方法が望ましいと思われるか。(複数回答可)

1 徒歩	608人	86.5%
2 自転車	431人	61.3%
3 公共交通機関	171人	24.3%
4 スクールバス	94人	13.4%
5 その他	2人	0.3%
無回答	14人	2.0%



(%は、回答数703人に対する比率)

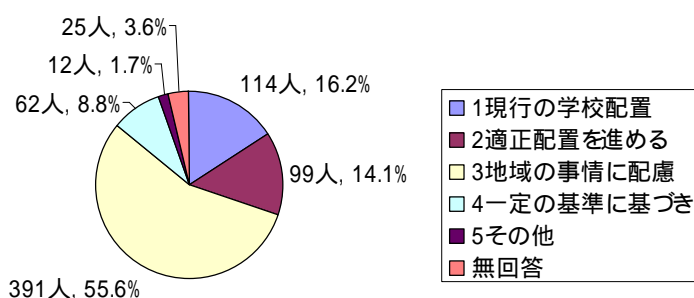
問15の質問で、中学生にとって望ましいと思われる通学方法について尋ねた。(複数回答可)「徒歩」が86.5%と最も多く、続いて「自転車」が61.3%の順となっている。

4. 学校の適正配置について

(1) 学校の適正配置に関する意見

問16 児童・生徒数が、将来大きく減少すると見込まれる学校について、広島市は今後どのようにすることが望ましいとあなたは思われますか、1つお答えください。

1 複式学級 (複数学年が1学級に含まれる) になったり、児童・生徒数が極端に減少したりしても、現行の学校配置を継続する。	114人	16.2%
2 複式学級 (複数学年が1学級に含まれる) になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、その都度、当該学校の適正配置を進める。	99人	14.1%
3 適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める。	391人	55.6%
4 適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、その計画に基づき学校の適正配置を進める。	62人	8.8%
5 その他	12人	1.7%
無回答	25人	3.6%
	703人	100.0%



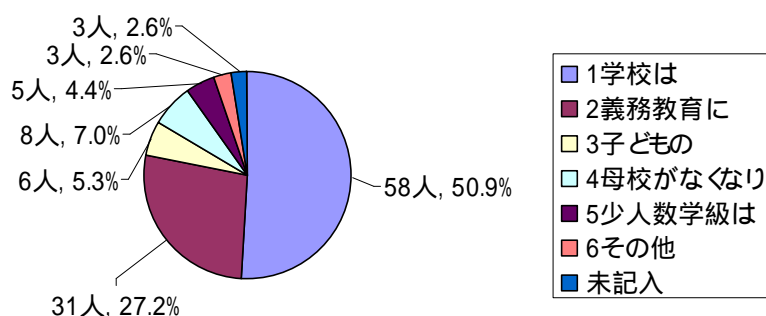
問16の質問で、広島市の今後の学校の適正配置について尋ねた。

学校の適正配置については、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める」が55.6%と最も多く、続いて「複式学級(複数学年が1学級に含まれる)になったり、児童・生徒数が極端に減少したりしても、現行の学校配置を継続する」が16.2%、「複式学級(複数学年が1学級に含まれる)になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、その都度、当該学校の適正配置を進める」が14.1%、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、その計画に基づき学校の適正配置を進める」が8.8%の順となっている。

この結果から見れば、「現行の学校配置を継続する」(16.2%)という意見もあるものの、8割近く(78.5%)がいずれかの方法で「学校の適正配置を検討する」ことが望ましいという意見である。

問16-2 問16で1の「現行の学校配置を継続する。」と答えられた方は、そう思われる理由を1つお答えください。

1 学校は、地域と深く結びつき、地域活動の拠点となる施設であるから。	58人	50.9%
2 義務教育においては、子どもは地域の中で育てることが重要だから。	31人	27.2%
3 子どもの地域への愛着を育むべきだから。	6人	5.3%
4 母校がなくなり、地域に子どもの姿がみえなくなるのは、寂しいから。	8人	7.0%
5 少人数学級は、ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができるから。	5人	4.4%
6 その他	3人	2.6%
無回答	3人	2.6%
	114人	100.0%



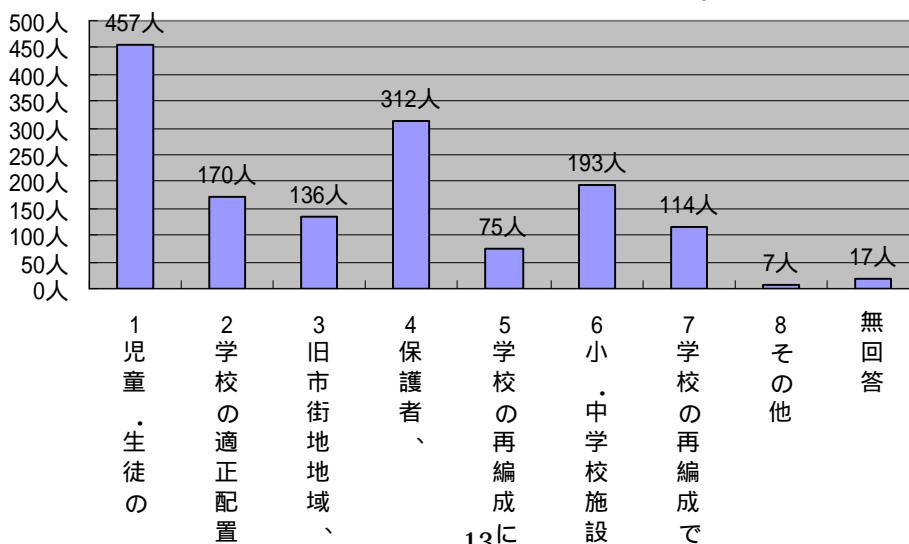
問16-2の質問で、「現行の学校配置継続」を望む理由を尋ねた。

「学校は、地域と深く結びつき、地域活動の拠点となる施設であるから」が50.9%と最も多く、続いて「義務教育においては、子どもは地域の中で育てることが重要だから」が27.2%の順となっている。

問16-3 以下の設問は、問16で2又は3又は4の「学校の適正配置を検討する。」と答えられた方にお聞きします。学校の適正配置を進めるとした場合に、配慮すべき点だと思われるものを3つ選んでください。

1 児童 生徒の通学 (時間 距離 方法)とその安全	457人	65.0%
2 学校の適正配置を進めるまでの児童 生徒同士の事前交流授業や学校行事の共同開催などの教育活動	170人	24.2%
3 旧市街地地域、ニュータウン地域、農村地域など環境が異なる地域の地域性	136人	19.3%
4 保護者、地域住民、地域団体との十分な協議	312人	44.4%
5 学校の再編成に伴う使用校舎の施設整備	75人	10.7%
6 小・中学校施設を一体利用した、9年間を見通した一貫教育の推進	193人	27.5%
7 学校の再編成で校舎などが空き施設になった場合、その有効活用	114人	16.2%
8 その他	7人	1.0%
無回答	17人	2.4%

(%は、回答数703人に対する比率)



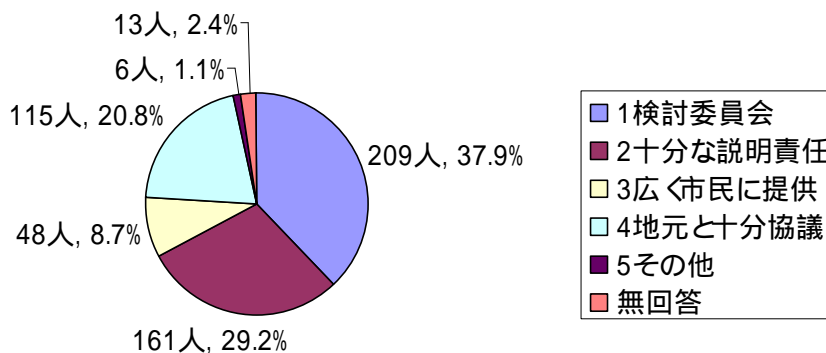
問16-3の質問で、「学校の適正配置を検討する」という意見を持つ回答者に、適正配置を進める場合に配慮すべき点を尋ねた。(3つ回答)

配慮すべき点は、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」が65.0%と最も多く、続いて「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」が44.4%、「小・中学校施設を一体利用した、9年間を見通した一貫教育の推進」が27.5%の順となっている。

この結果から見れば、「学校の適正配置を検討する」場合には、3分の2の人が「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」に配慮するべきという意見である。

問16-4 学校の適正配置を進めるとした場合に、保護者、地域住民、地域団体との十分な協議など地域社会へ配慮するためには、どのような方法が望ましいとお考えですか、1つお答えください。

1 学校の適正配置検討地域の保護者、地域の方々、地域団体などを中心とした検討委員会を設置する。	209人	37.9%
2 学校の適正配置検討地域の保護者、地域の方々、地域団体などに対し十分な説明責任を果たす。	161人	29.2%
3 学校の適正配置に関する情報は、随時、広島市のホームページなどを通じて広く市民に提供する。	48人	8.7%
4 学校の適正配置を進めるとした場合に、通学区域の変更がコミュニティ活動にできるだけ混乱をきたさないように地元と十分に協議する。	115人	20.8%
5 その他	6人	1.1%
無回答	13人	2.4%
	552人	100.0%

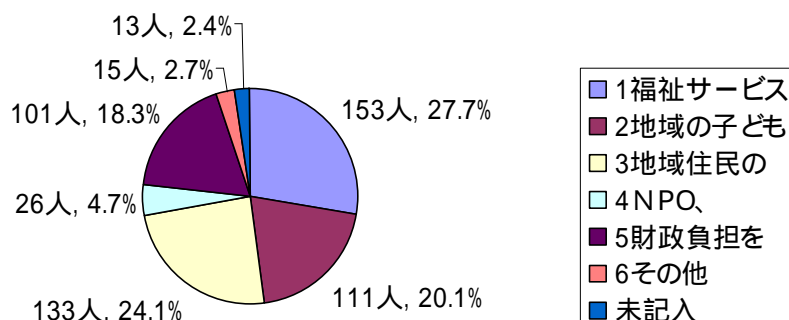


問16-4の質問で、「学校の適正配置を検討する」という意見を持つ回答者に、適正配置を進める場合に地域社会へ配慮するための方法について尋ねた。

「学校の適正配置検討地域の保護者、地域の方々、地域の団体などを中心とした検討委員会を設置する」が37.9%と最も多く、続いて「学校の適正配置検討地域の保護者、地域の方々、地域団体などに対し十分な説明責任を果たす」が29.2%の順となっている。

問16-5 あなたのお住まいの地域において、小・中学校の校舎などが学校再編成で空き施設になった場合、どのように活用することが望ましいとお考えですか、1つお答えください。

1 福祉サービスのための施設として利用する。	153人	27.7%
2 地域の子どものための施設として利用する。	111人	20.1%
3 地域住民の生涯学習のための施設として利用する。	133人	24.1%
4 NPO、民間団体などの活動のための施設として利用する。	26人	4.7%
5 財政負担を軽減するため、売却処分する。	101人	18.3%
6 その他	15人	2.7%
無回答	13人	2.4%
	552人	100.0%



問16-5の質問で、「学校の適正配置を検討する」という意見を持つ回答者に、学校再編成で生じた空き施設の望ましい活用法を尋ねた。

望ましい活用法は、「福祉サービスのための施設として利用する」が27.7%と最も多く、続いて「地域住民の生涯学習のための施設として利用する」が24.1%の順となっている。

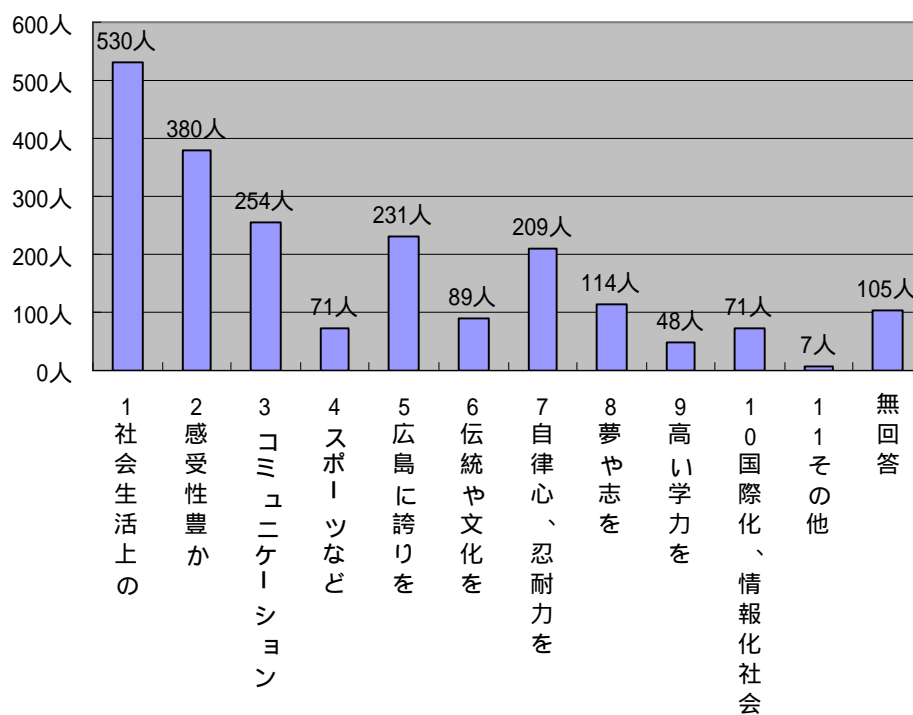
5. 理想とするこれからの広島市のめざす子ども像について

(1) 望ましい子どもの将来像

問17 これからの広島市の学校は子どもをどのような人に育てていくことが大切か、重要と考えられるものを3つ選んでください。

1 社会生活上のルールを守り、善悪を判断できる力を身につけた人	530人	75.4%
2 感受性豊かで、自分のよさを大切にするとともに、互いの違い(ありのまま)を認めるやさしさ、思いやりがある心豊かな人	380人	54.1%
3 コミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係をつくり出せる人	254人	36.1%
4 スポーツなどで鍛えた頑強な身体を持ち、自信とバイタリティーを備えた人	71人	10.1%
5 広島に誇りを持ち、人間の尊厳、生命の尊さを自覚し、世界平和に貢献できる人	231人	32.9%
6 伝統や文化を尊重して郷土を愛し、地域貢献ができる人	89人	12.7%
7 自律心、忍耐力を身につけた人	209人	29.7%
8 夢や志を持ち続ける人	114人	16.2%
9 高い学力を身につけ、知識を人のために生かす知恵を持った人	48人	6.8%
10 国際化、情報化社会に対応できる人	71人	10.1%
11 その他	7人	1.0%
無回答	105人	14.9%

(%は、回答数703人に対する比率)



問17の質問で、望ましい子どもの将来像について尋ねた。(3つ回答)

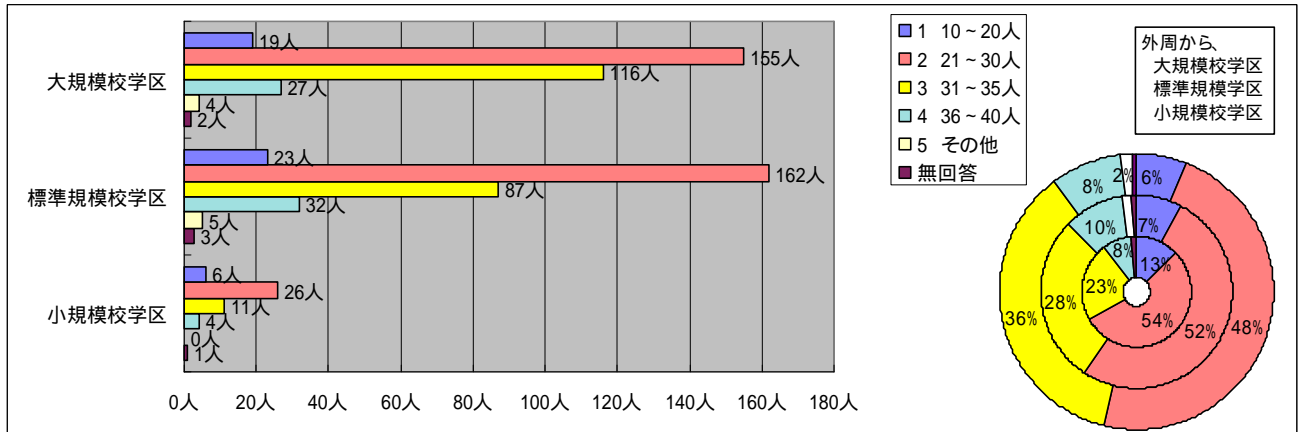
回答率が30%以上の項目を多い順に見ると、「社会生活上のルールを守り、善悪を判断できる力を身につけた人」が75.4%と最も多く、続いて「感受性豊かで、自分のよさを大切にするとともに、互いの違い(ありのまま)を認めるやさしさ、思いやりがある心豊かな人」が54.1%、「コミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係をつくり出せる人」が36.1%、「広島に誇りを持ち、人間の尊厳、生命の尊さを自覚し、世界平和に貢献できる人」が32.9%という順になっている。

調査結果（アンケートクロス集計結果）

問6 小学校の児童数は、法令によると、「1学級40人以下とする」となっていますが、どの程度の学級人数が望ましいと思われますか、1つお答えください。

（ 回答者居住地域の小学校区の学校規模別集計 ）

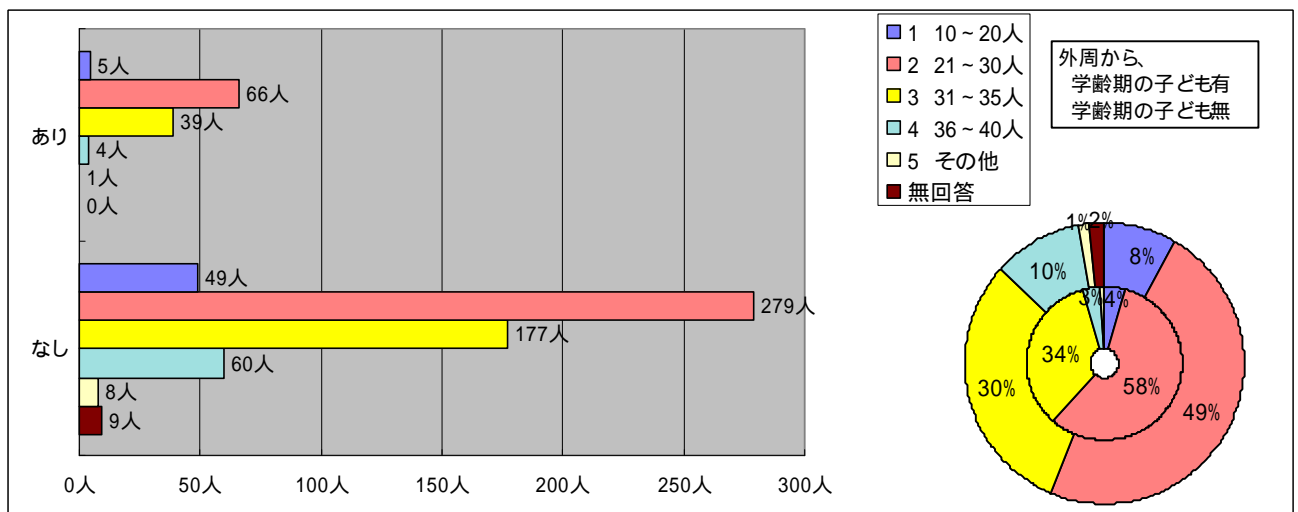
規模	1 10～20人	2 21～30人	3 31～35人	4 36～40人	5 その他	無回答
大規模校学区	19人	155人	116人	27人	4人	2人
標準規模校学区	23人	162人	87人	32人	5人	3人
小規模校学区	6人	26人	11人	4人	0人	1人



問6の質問で、小学校で望ましいと思う1学級当たりの人数について、回答者居住地域の小学校区の学校規模別に回答を整理した。大規模校・標準規模校・小規模校学区のいずれも「1学級当たり21～30人」が最も多く、続いて「1学級当たり31～35人」となっている。

（ 学齢期の子どもの有無別集計 ）

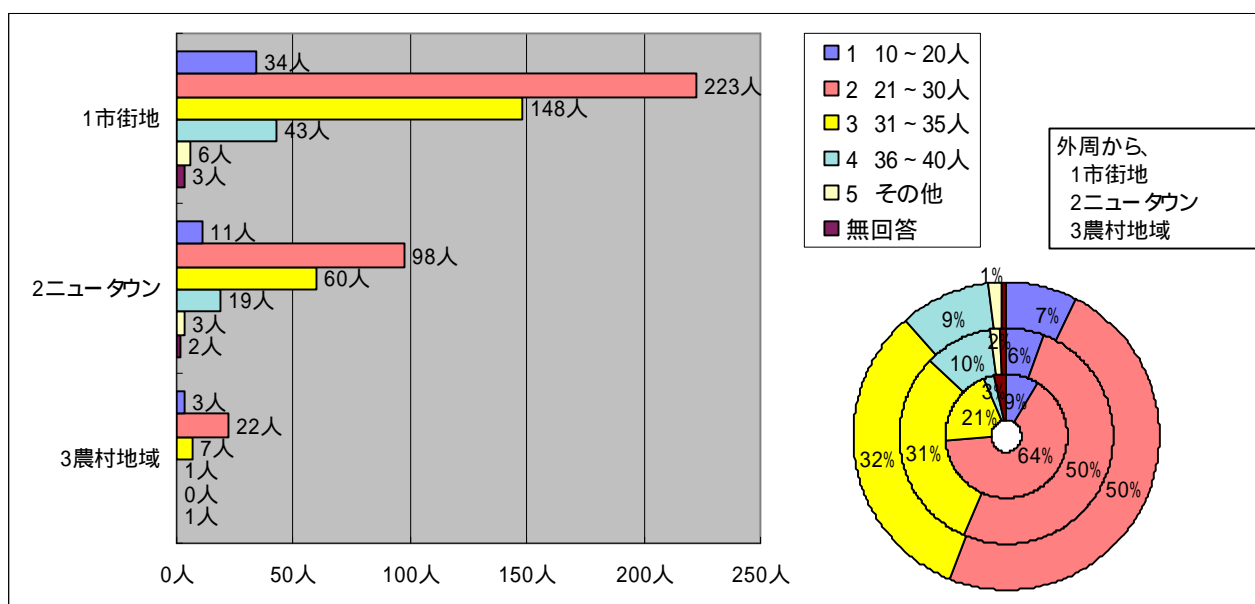
学齢期の子ども (小学生または中学生)の有無	1 10～20人	2 21～30人	3 31～35人	4 36～40人	5 その他	無回答
あり	5人	66人	39人	4人	1人	0人
なし	49人	279人	177人	60人	8人	9人
小学校入学前の子どものみいる	6人	33人	17人	9人	0人	2人
高校生以上の子どものみいる	6人	60人	50人	12人	2人	4人
子どもはいない	37人	186人	110人	39人	6人	3人



問6の質問で、小学校で望ましいと思う1学級当たりの人数について、学齢期の子どもの有無別に回答を整理した。学齢期の子どもの有無にかかわらず、「1学級当たり21～30人」が最も多く、続いて「1学級当たり31～35人」となっている。

(回答者居住地域の小学校区の地域特性別集計)

区分	1 10～20人	2 21～30人	3 31～35人	4 36～40人	5 その他	無回答
1 市街地	34人	223人	148人	43人	6人	3人
2 ニュータウン	11人	98人	60人	19人	3人	2人
3 農村地域	3人	22人	7人	1人	0人	1人

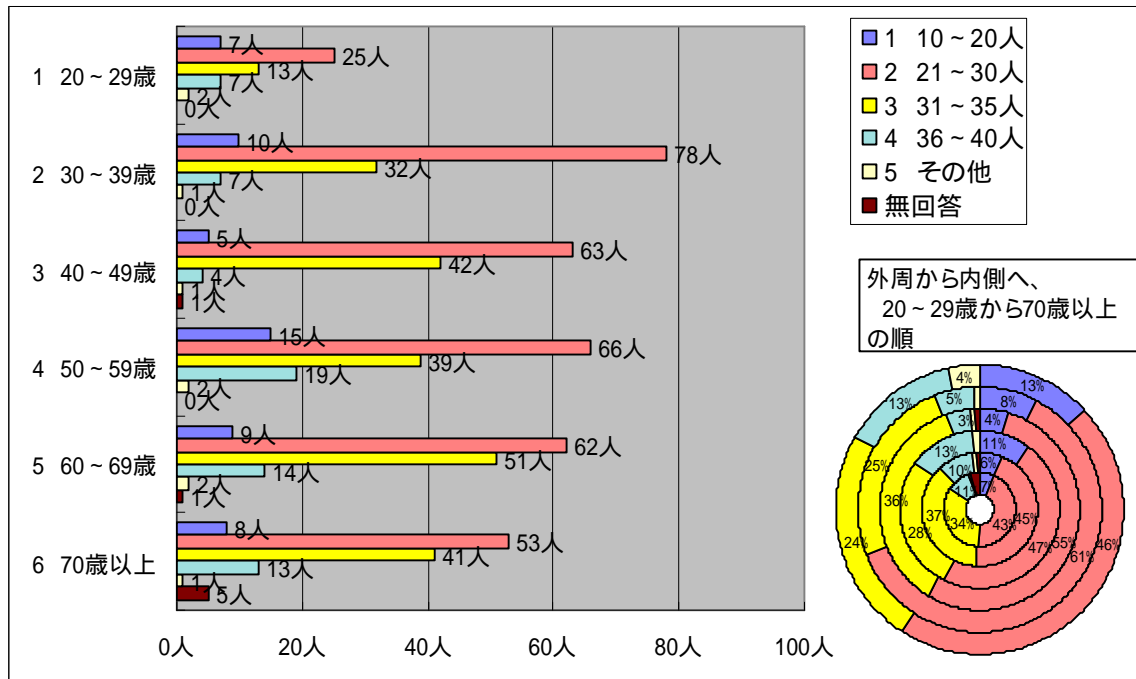


問6の質問で、小学校で望ましいと思う1学級当たりの人数について、回答者居住地域の小学校区の地域特性別に回答を整理した。

市街地・ニュータウン・農村地域のいずれも「1学級当たり21～30人」が最も多く、続いて「1学級当たり31～35人」となっている。

(年齢層別集計)

区分	1 10～20人	2 21～30人	3 31～35人	4 36～40人	5 その他	無回答
1 20～29歳	7人	25人	13人	7人	2人	0人
2 30～39歳	10人	78人	32人	7人	1人	0人
3 40～49歳	5人	63人	42人	4人	1人	1人
4 50～59歳	15人	66人	39人	19人	2人	0人
5 60～69歳	9人	62人	51人	14人	2人	1人
6 70歳以上	8人	53人	41人	13人	1人	5人

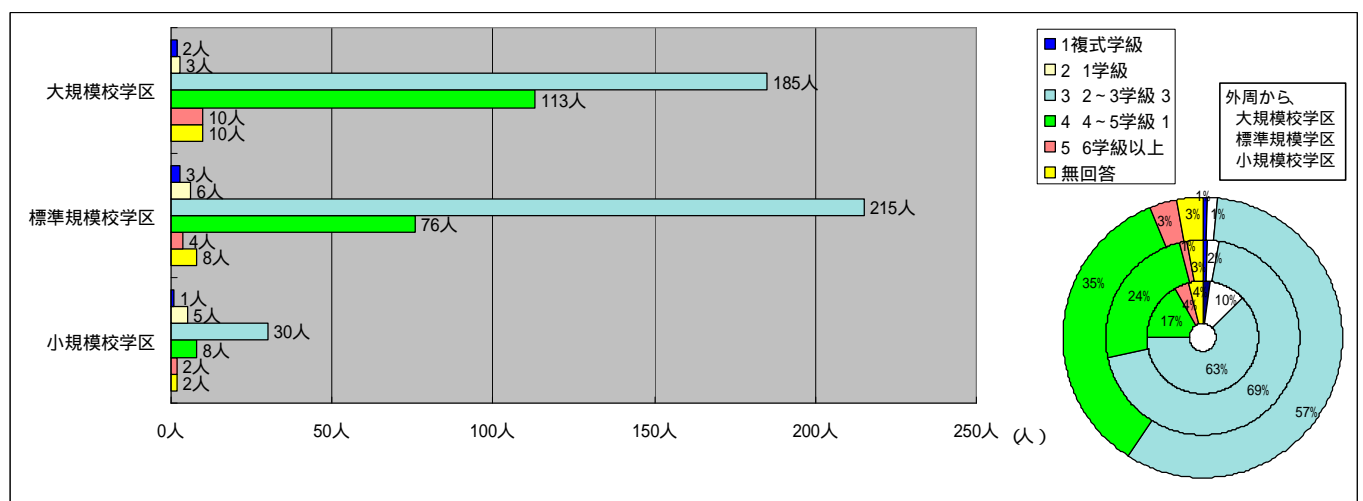


問6の質問で、小学校で望ましいと思う1学級当人数について、年齢層別に回答を整理した。20歳代～70歳以上のいずれの年齢層も「1学級当たり21～30人」が最も多く、続いて「1学級当たり31～35人」となっている。

問7 小学校の学級数は、学校教育法施行規則によると、「1学年当たり2～3学級」(1学校当たり12学級～18学級)を標準とされていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われますか、1つお答えください。

(回答者居住地域の小 шко 区 の 学 校 規 模 別 集 計)

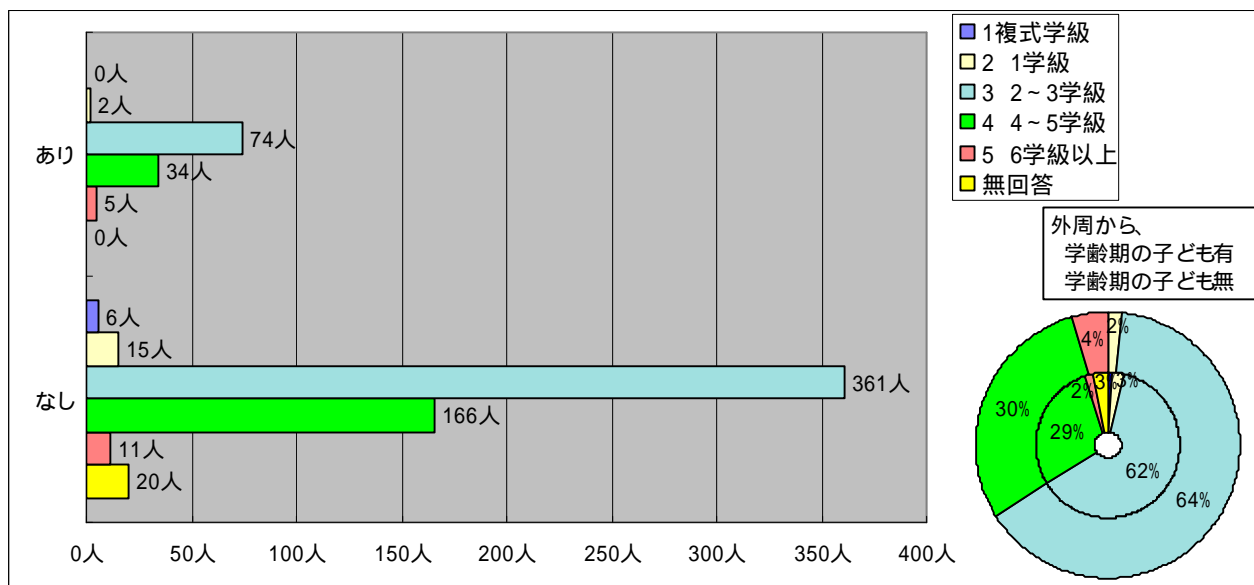
規模	1 複式学級	2 1学級	3 2～3学級	4 4～5学級	5 6学級以上	無回答
大規模校学区	2人	3人	185人	113人	10人	10人
標準規模校学区	3人	6人	215人	76人	4人	8人
小規模校学区	1人	5人	30人	8人	2人	2人



問7の質問で、小学校で望ましいと思う1学年当たりの学級数について、回答者居住地域の小 шко 区 の 学 校 規 模 別 に 回 答 を 整 理 し た 。 大 規 模 校 ・ 標 準 規 模 校 ・ 小 規 模 校 学 区 の い ず れ も 「 1 学 年 当 た り 2 ～ 3 学 級 」 が 最 も 多 く 、 続 い て 「 1 学 年 当 た り 4 ～ 5 学 級 」 と な っ て い る 。

(学齢期の子どもの有無別集計)

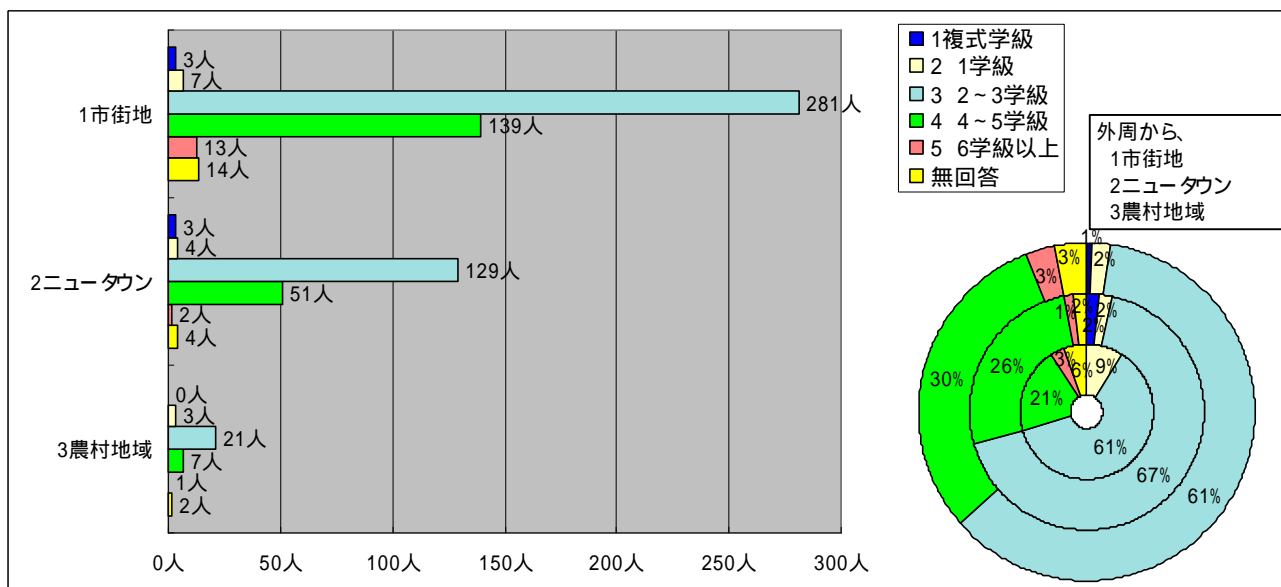
学齢期の子どもの有無	1 複式学級	2 1学級	3 2~3学級	4 4~5学級	5 6学級以上	無回答
あり	0人	2人	74人	34人	5人	0人
なし	6人	15人	361人	166人	11人	20人
小学校入学前の子どものみいる	2人	0人	42人	19人	0人	2人
高校生以上の子どものみいる	0人	0人	88人	35人	4人	5人
子どもはいない	4人	15人	231人	112人	7人	13人



問7の質問で、小学校で望ましいと思う1学年当たりの学級数について、学齢期の子どもの有無別に回答を整理した。学齢期の子どもの有無にかかわらず、「1学年当たり2~3学級」が最も多く、続いて「1学年当たり4~5学級」となっている。

(回答者居住地の小学校区の地域特色別集計)

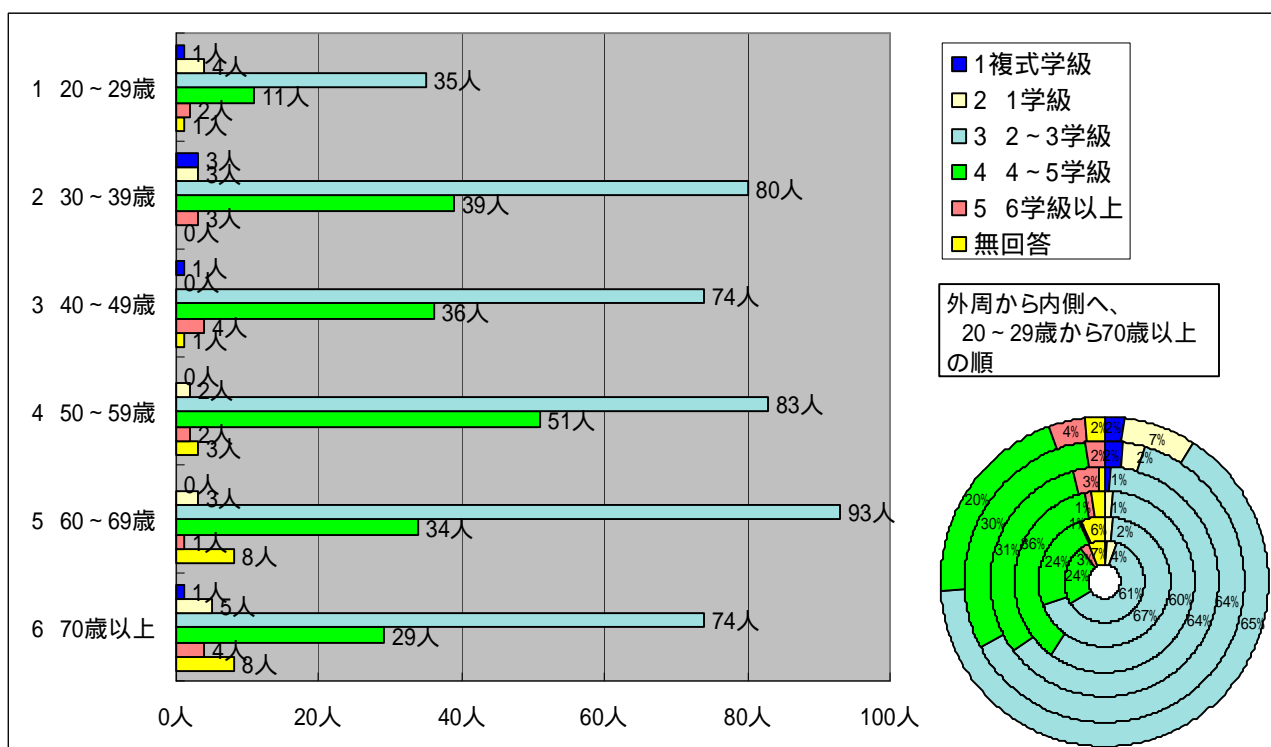
区分	1 複式学級	2 1学級	3 2~3学級	4 4~5学級	5 6学級以上	無回答
1 市街地	3人	7人	281人	139人	13人	14人
2 ニュータウン	3人	4人	129人	51人	2人	4人
3 農村地域	0人	3人	21人	7人	1人	2人



問7の質問で、小学校で望ましいと思う1学年当たりの学級数について、回答者居住地の小学校区の地域特性別に回答を整理した。
市街地・ニュータウン・農村地域のいずれも「1学年当たり2～3学級」が最も多く、続いて「1学年当たり4～5学級」となっている。

(年齢層別集計)

区分	1 複式学級	2 1学級	3 2～3学級	4 4～5学級	5 6学級以上	無回答
1 20～29歳	1人	4人	35人	11人	2人	1人
2 30～39歳	3人	3人	80人	39人	3人	0人
3 40～49歳	1人	0人	74人	36人	4人	1人
4 50～59歳	0人	2人	83人	51人	2人	3人
5 60～69歳	0人	3人	93人	34人	1人	8人
6 70歳以上	1人	5人	74人	29人	4人	8人

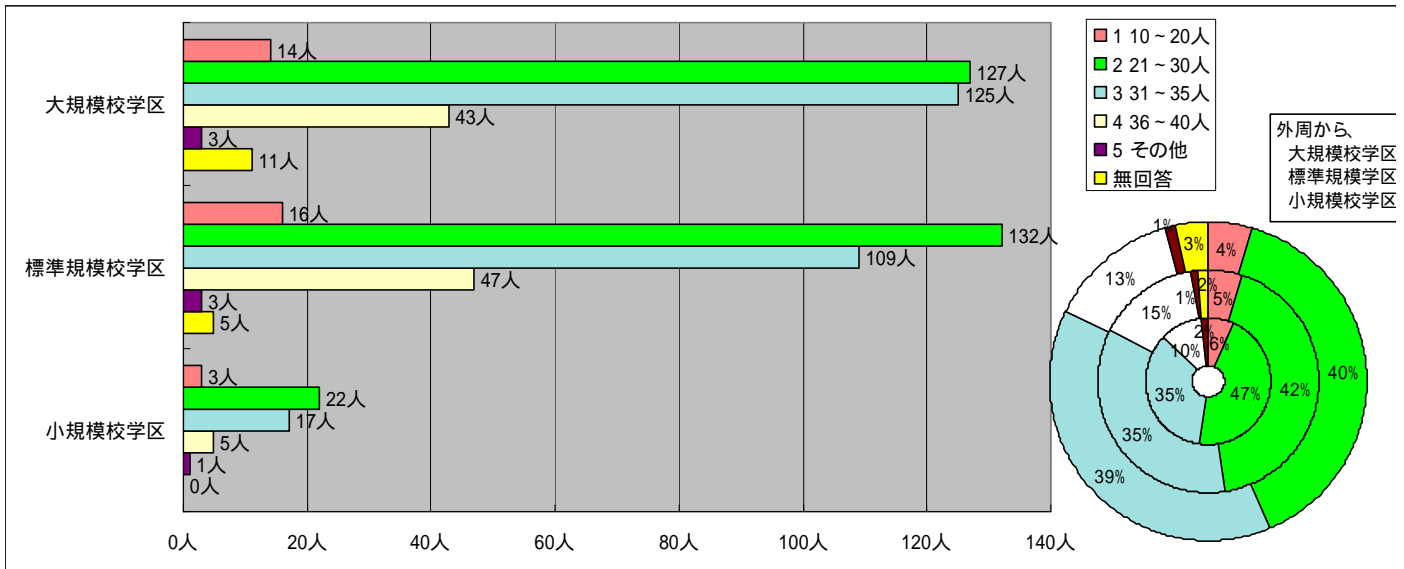


問7の質問で、小学校で望ましいと思う1学年当たりの学級数について、年齢層別に回答を整理した。
20歳代～70歳以上のいずれの年齢層も「1学年当たり2～3学級」が最も多く、続いて「1学年当たり4～5学級」となっている。

問8 中学校の生徒数は、法令によると、「1学級40人以下とする」となっていますが、どの程度の学級人数が望ましいと思われますか、1つお答えください。

(回答者居住地の小学校区の学校規模別集計)

規模	1 10～20人	2 21～30人	3 31～35人	4 36～40人	5 その他	無回答
大規模校学区	14人	127人	125人	43人	3人	11人
標準規模校学区	16人	132人	109人	47人	3人	5人
小規模校学区	3人	22人	17人	5人	1人	0人

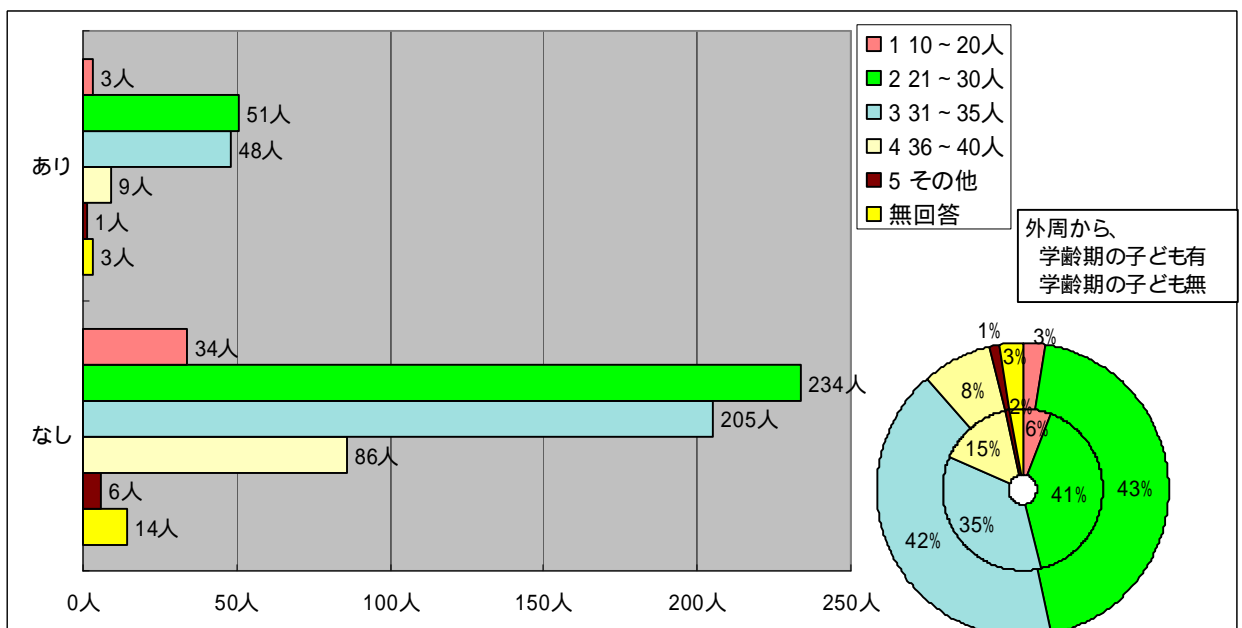


問8の質問で、中学校で望ましいと思う1学級当たりの人数について、回答者居住地の小学校区の学校規模別に回答を整理した。

大規模校・標準規模校・小規模校学区のいずれも「1学級当たり21～30人」が最も多く、続いて「1学級当たり31～35人」となっている。

(学齢期の子どもの有無別集計)

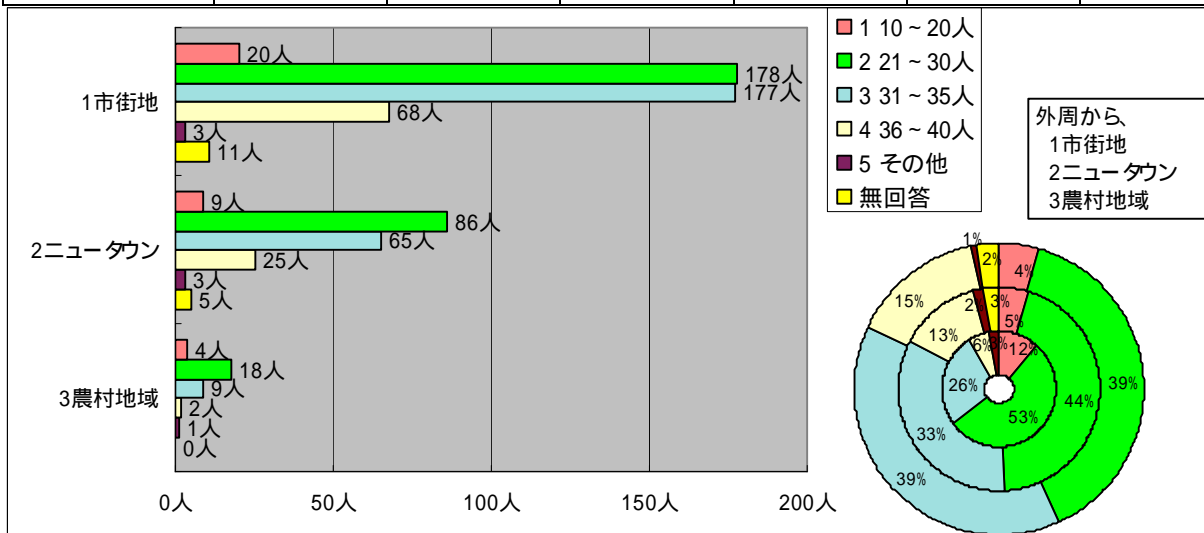
学齢期の子どもの有無	1 10～20人	2 21～30人	3 31～35人	4 36～40人	5 その他	無回答
あり	3人	51人	48人	9人	1人	3人
なし	34人	234人	205人	86人	6人	14人
小学校入学前の子どものみいる	1人	29人	25人	9人	1人	0人
高校生以上の子どものみいる	4人	46人	55人	20人	2人	5人
子どもはいない	29人	159人	125人	57人	3人	9人



問8の質問で、中学校で望ましいと思う1学級当たりの人数について、学齢期の子どもの有無別に回答を整理した。学齢期の子どもの有無にかかわらず、「1学級当たり21～30人」が最も多く、続いて「1学級当たり31～35人」となっている。

(回答者居住地域の小学校区の地域特性格集計)

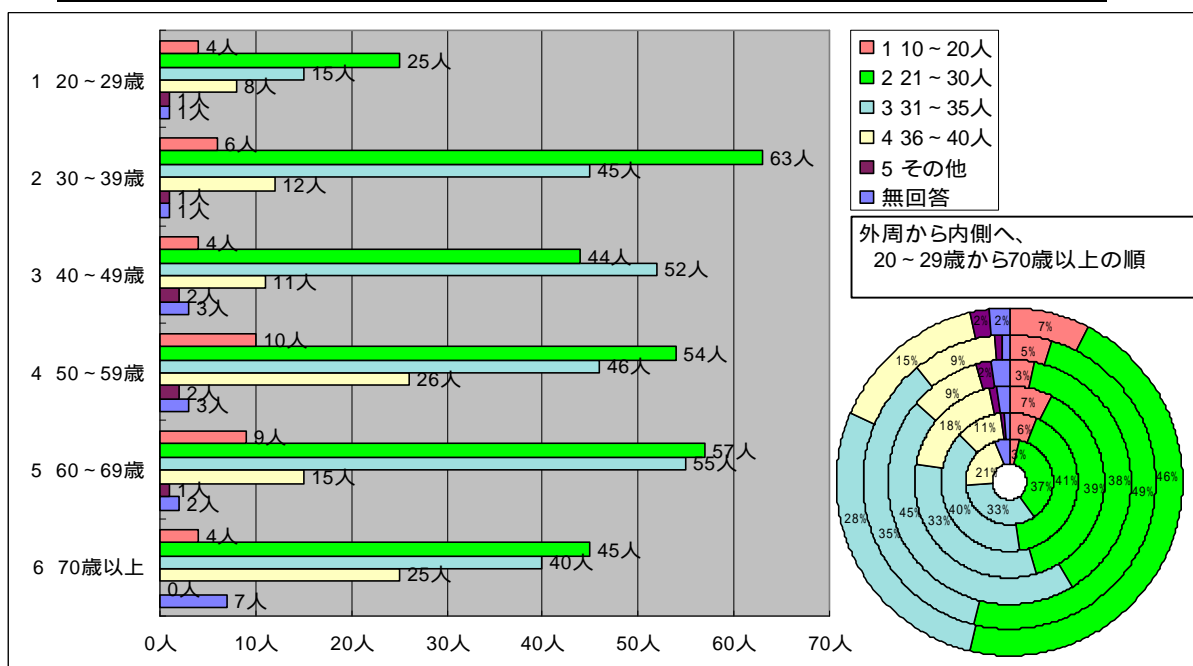
区分	1 10～20人	2 21～30人	3 31～35人	4 36～40人	5 その他	無回答
1 市街地	20人	178人	177人	68人	3人	11人
2 ニュータウン	9人	86人	65人	25人	3人	5人
3 農村地域	4人	18人	9人	2人	1人	0人



問8の質問で、中学校で望ましいと思う1学級当たりの学級人数について、回答者居住地域の小学校区の地域特性格別に回答を整理した。市街地・ニュータウン・農村地域のいずれも「1学級当たり21～30人」が最も多く、続いて「1学級当たり31～35人」となっている。

(年齢層別集計)

区分	1 10～20人	2 21～30人	3 31～35人	4 36～40人	5 その他	無回答
1 20～29歳	4人	25人	15人	8人	1人	1人
2 30～39歳	6人	63人	45人	12人	1人	1人
3 40～49歳	4人	44人	52人	11人	2人	3人
4 50～59歳	10人	54人	46人	26人	2人	3人
5 60～69歳	9人	57人	55人	15人	1人	2人
6 70歳以上	4人	45人	40人	25人	0人	7人

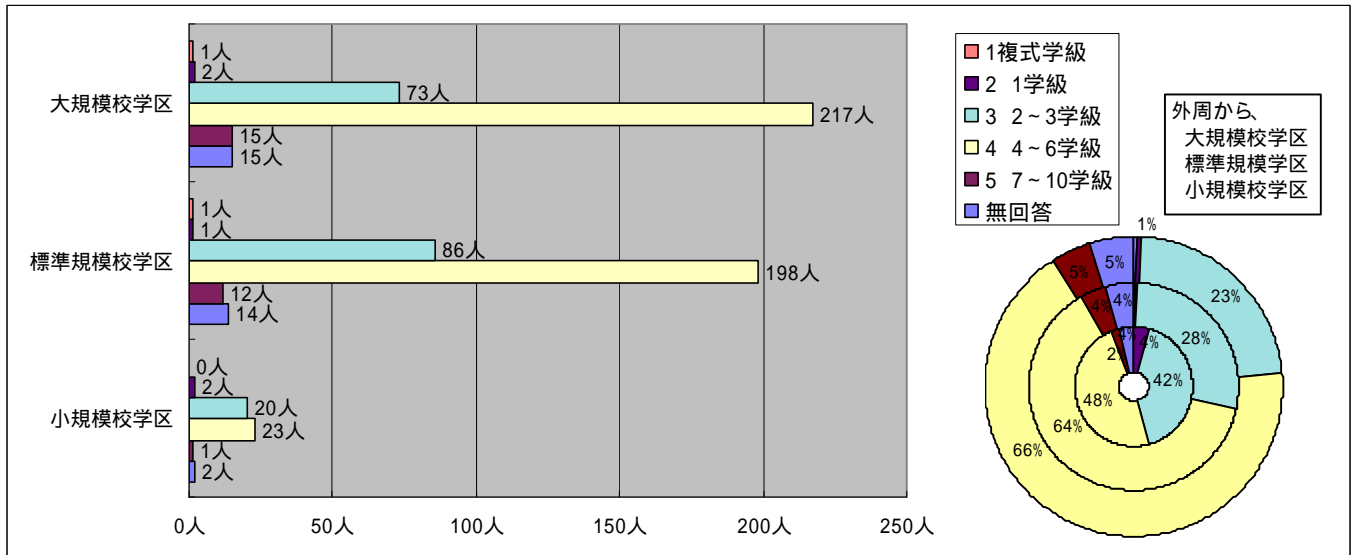


問7の質問で、中学校で望ましいと思う1学級当たりの人数について、年齢層別に回答を整理した。
 20歳代、30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上のいずれの年齢層も「1学級当たり21～30人」が最も多く、
 続いて「1学級当たり31～35人」となっているが、40歳代は「1学級当たり31～35人」が最も多く、続いて
 「1学級当たり21～30人」となっている。

**問9 中学校の学級数は、学校教育法施行規則によると、「1学年当たり4～6学級」(1学校当たり12学級～
 18学級)を標準とするとなっていますが、どの程度の学級数が望ましいと思われますか、1つお答えくだ
 さい。**

(回答者居住地域の小学校区の学校規模別集計)

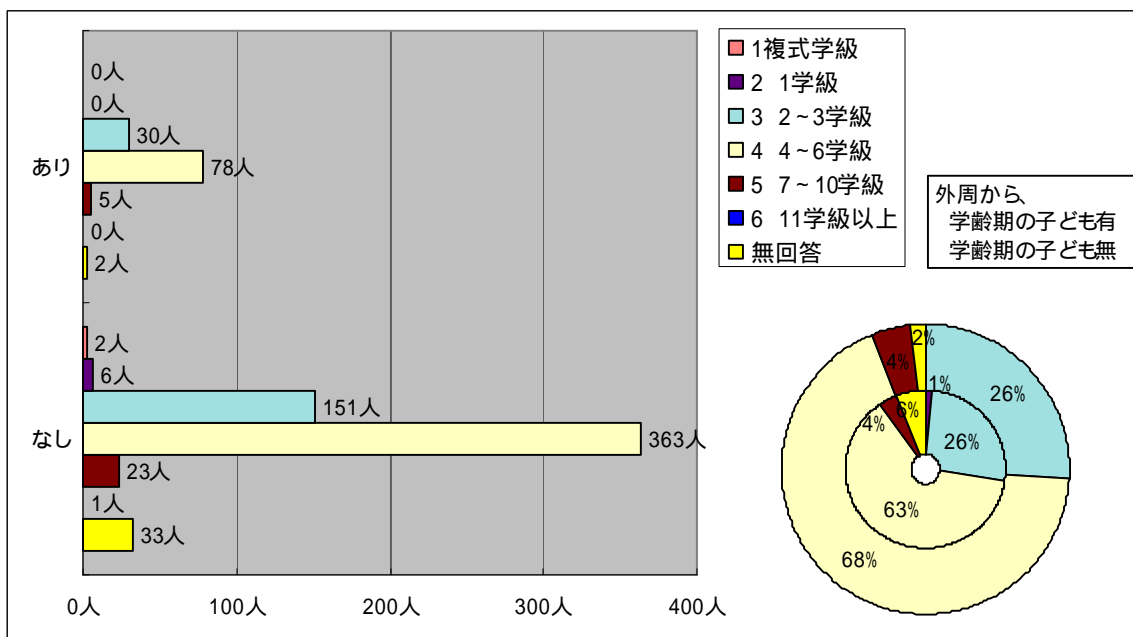
規模	1複式学級	2 1学級	3 2～3学級	4 4～6学級	5 7～10学級	無回答
大規模校学区	1人	2人	73人	217人	15人	15人
標準規模校学区	1人	1人	86人	198人	12人	14人
小規模校学区	0人	2人	20人	23人	1人	2人



問9の質問で、中学校で望ましいと思う1学年当たりの学級数について、回答者居住地域の小学校区の学校規模別に
 回答を整理した。
 大規模校・標準規模校・小規模校学区のいずれも「1学年当たり4～6学級」が最も多く、続いて「1学年当たり2～
 3学級」となっている。

(学齢期の子どもの有無別集計)

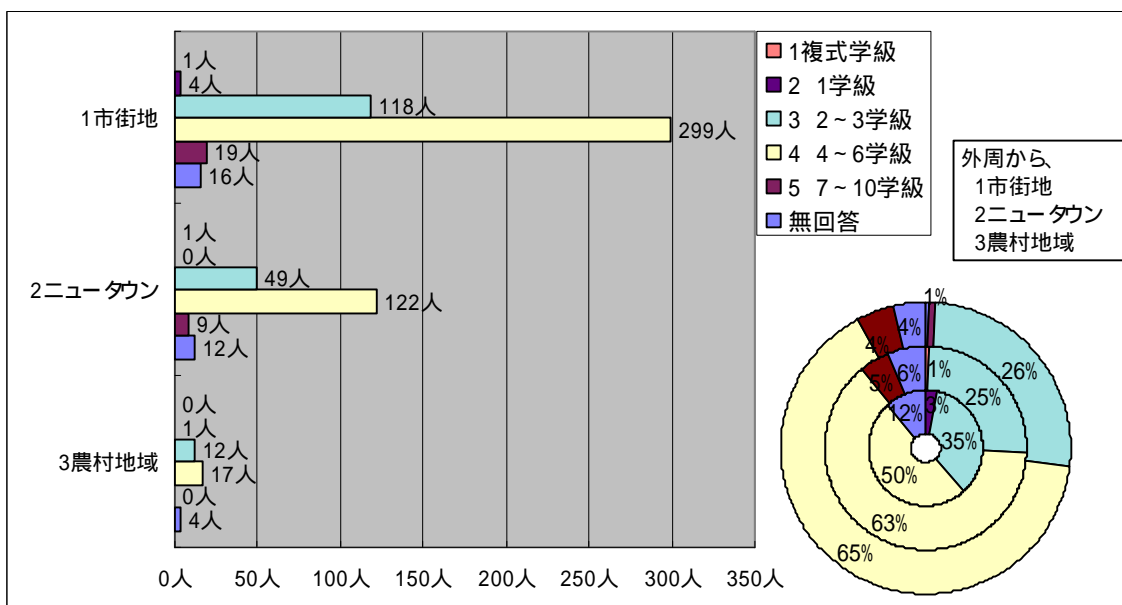
学齢期の子どもの有無	1 複式学級	2 1学級	3 2~3学級	4 4~6学級	5 7~10学級	6 11学級以上	無回答
あり	0人	0人	30人	78人	5人	0人	2人
なし	2人	6人	151人	363人	23人	1人	33人
小学校入学前の子どものみいる	1人	0人	15人	46人	0人	0人	3人
高校生以上の子どものみいる	0人	0人	32人	89人	2人	0人	9人
子どもはいない	1人	6人	104人	228人	21人	1人	21人



問9の質問で、中学校で望ましいと思う1学年当たりの学級数について、学齢期の子どもの有無別に回答を整理した。学齢期の子どもの有無にかかわらず、「1学年当たり4~6学級」が最も多く、続いて「1学年当たり2~3学級」となっている。

(回答者居住地域の小学校区の地域特性格別集計)

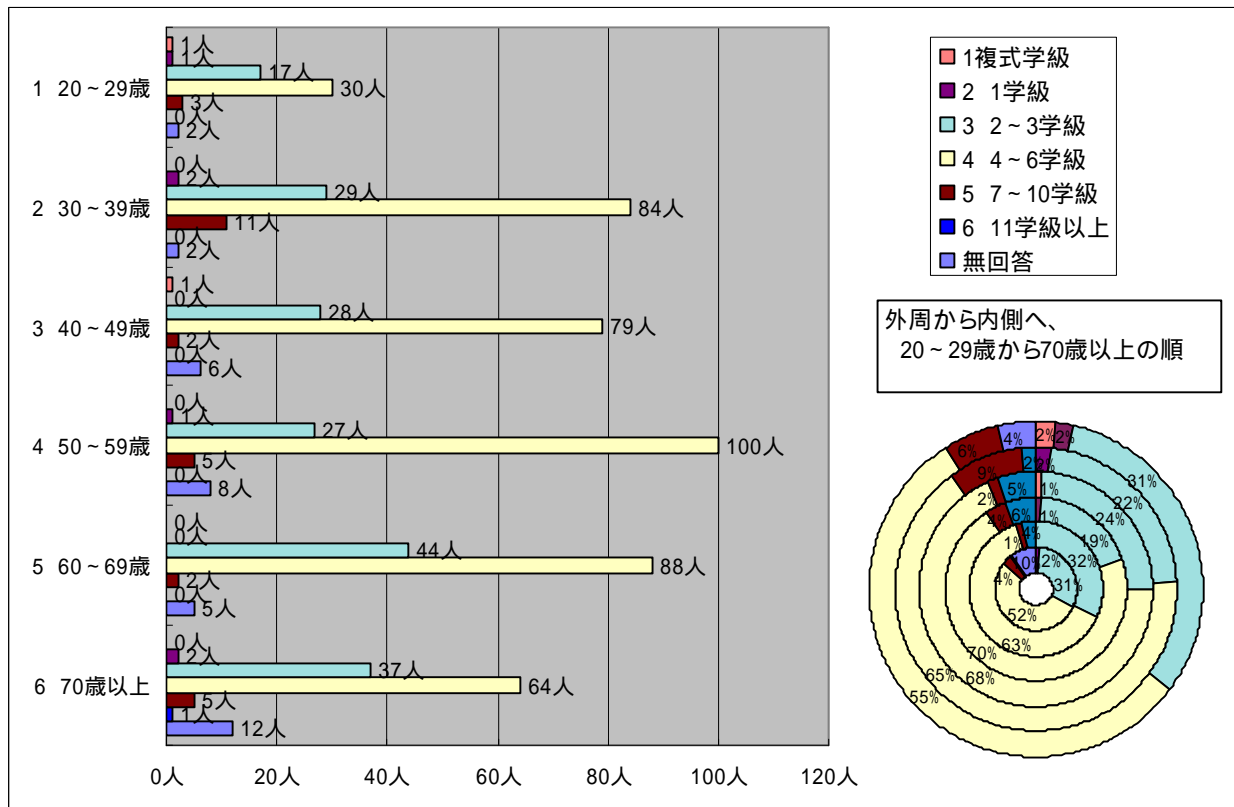
区分	1 複式学級	2 1学級	3 2~3学級	4 4~6学級	5 7~10学級	無回答
1 市街地	1人	4人	118人	299人	19人	16人
2 ニュータウン	1人	0人	49人	122人	9人	12人
3 農村地域	0人	1人	12人	17人	0人	4人



問9の質問で、中学校で望ましいと思う1学年当たりの学級数について、回答者居住地の小学校区の地域特性別に回答を整理した。市街地・ニュータウン・農村地域のいずれも「1学年当たり4～6学級」が最も多く、続いて「1学年当たり2～3学級」となっている。

(年齢層別集計)

区分	1 複式学級	2 1学級	3 2～3学級	4 4～6学級	5 7～10学級	6 11学級以上	無回答
1 20～29歳	1人	1人	17人	30人	3人	0人	2人
2 30～39歳	0人	2人	29人	84人	11人	0人	2人
3 40～49歳	1人	0人	28人	79人	2人	0人	6人
4 50～59歳	0人	1人	27人	100人	5人	0人	8人
5 60～69歳	0人	0人	44人	88人	2人	0人	5人
6 70歳以上	0人	2人	37人	64人	5人	1人	12人

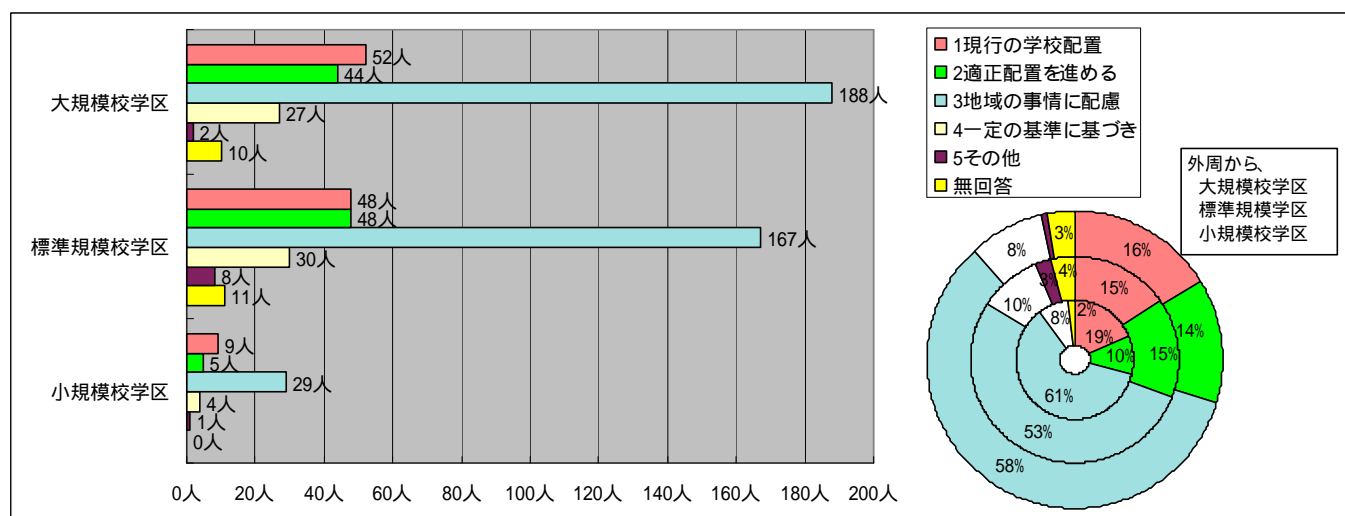


問9の質問で、中学校で望ましいと思う1学年当たりの学級数について、年齢層別に回答を整理した。20歳代～70歳以上のいずれの年齢層も「1学年当たり4～6学級」が最も多く、続いて「1学年当たり2～3学級」となっている。

問16 児童・生徒数が、将来大きく減少すると見込まれる学校について、広島市は今後どのようにすることが望ましいとあなたは思われますか、1つお答えください。

(回答者居住地域の小学校区の学校規模別集計)

規模	1 現行の学校配置	2 適正配置を進める	3 地域の事情に配慮	4 一定の基準に基づき	5 その他	無回答
大規模校区	52人	44人	188人	27人	2人	10人
標準規模校区	48人	48人	167人	30人	8人	11人
小規模校区	9人	5人	29人	4人	1人	0人



問16の質問で、広島市の今後の学校の適正配置について、回答者居住地域の小学校区の学校規模別に回答を整理した。

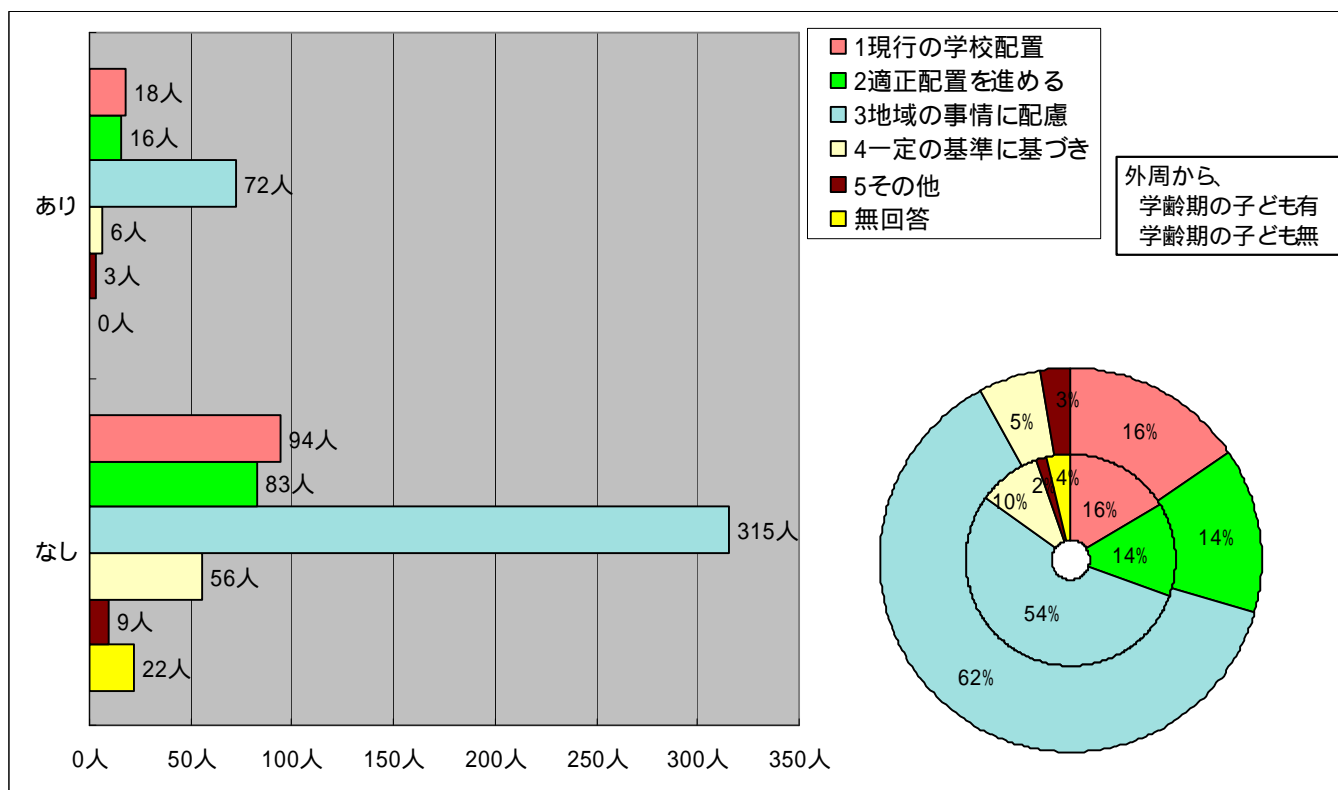
学校の適正配置については、大規模校・小規模校区のいずれも「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める」が最も多く、続いて「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、児童・生徒数が極端に減少したりしても、現行の学校配置を継続する」が多く、次に「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、その都度、当該学校の適正配置を進める」、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、その計画に基づき学校の適正配置を進める」となっている。

標準規模校区においては、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める」が最も多く、続いて「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、児童・生徒数が極端に減少したりしても、現行の学校配置を継続する」と「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、その都度、当該学校の適正配置を進める」は同数となっており、次に「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、その計画に基づき学校の適正配置を進める」となっている。

この結果から見れば、いずれの学区においても「現行の学校配置を継続する」という意見もあるものの、いずれかの方法で「学校の適正配置を進める」ことが望ましいという意見が多数である。

(学齢期の子どもの有無別集計)

学齢期の子どもの有無	1 現行の学校配置	2 適正配置を進める	3 地域の事情に配慮	4 一定の基準に基づき	5 その他	無回答
あり	18人	16人	72人	6人	3人	0人
なし	94人	83人	315人	56人	9人	22人
小学校入学前の子どものみいる	7人	9人	43人	3人	3人	0人
高校生以上の子どものみいる	27人	22人	66人	14人	1人	2人
子どもはいない	60人	52人	206人	39人	5人	20人

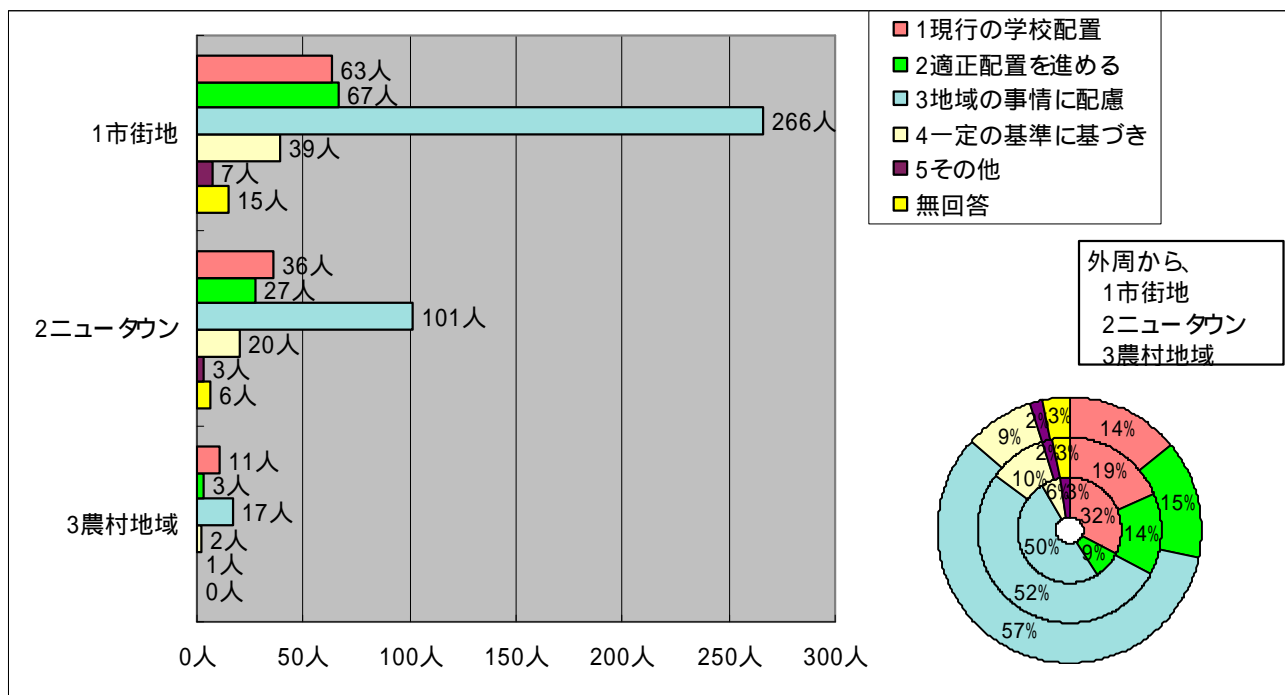


問16の質問で、広島市の今後の学校の適正配置について、学齢期の子どもの有無別に回答を整理した。学校の適正配置については、学齢期の子どもの有無にかかわらず、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める」が最も多く、続いて「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、児童・生徒数が極端に減少したりしても、現行の学校配置を継続する」が多く、次に「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、その都度、当該学校の適正配置を進める」、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、その計画に基づき学校の適正配置を進める」となっている。

この結果から見れば、学齢期の子どもの有無にかかわらず、「現行の学校配置を継続する」という意見もあるものの、いずれかの方法で「学校の適正配置を進める」ことが望ましいという意見が多数である。

(回答者居住地の小学校区の地域特性格集計)

区分	1 現行の学校配置	2 適正配置を進める	3 地域の事情に配慮	4 一定の基準に基づき	5 その他	無回答
1 市街地	63人	67人	266人	39人	7人	15人
2 ニュータウン	36人	27人	101人	20人	3人	6人
3 農村地域	11人	3人	17人	2人	1人	0人



問16の質問で、広島市の今後の学校の適正配置について、回答者居住地の小学校区の地域特性別に回答を整理した。

学校の適正配置については、市街地では、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める」が最も多く、続いて「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、その都度、当該学校の適正配置を進める」が多く、次に「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、児童・生徒数が極端に減少したりしても、現行の学校配置を継続する」、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、その計画に基づき学校の適正配置を進める」となっている。

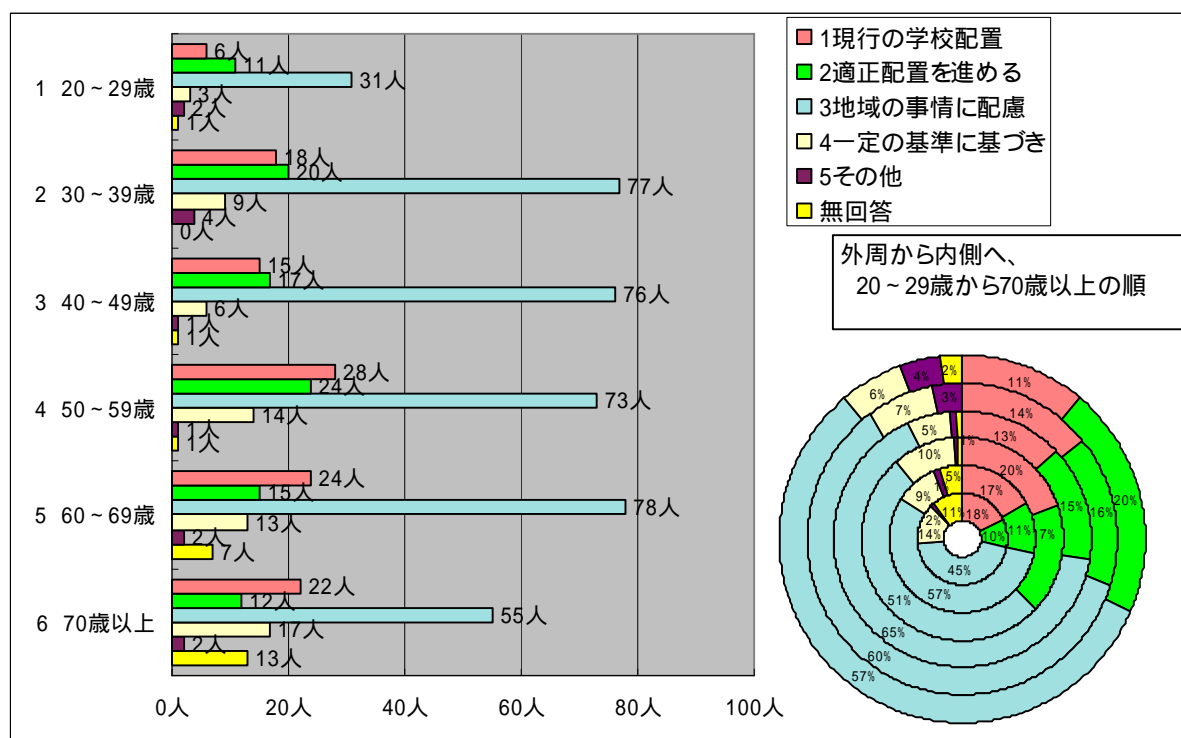
ニュータウンでは、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める」が最も多く、続いて「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、児童・生徒数が極端に減少したりしても、現行の学校配置を継続する」が多く、次に「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、その都度、当該学校の適正配置を進める」、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、その計画に基づき学校の適正配置を進める」となっている。

農村地域では、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める」が最も多く、続いて「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、児童・生徒数が極端に減少したりしても、現行の学校配置を継続する」が多く、次に「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、その都度、当該学校の適正配置を進める」と「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、その計画に基づき学校の適正配置を進める」が同数となっている。

この結果から見れば、いずれの回答者居住地の小学校区の地域特性においても「現行の学校配置を継続する」という意見もあるものの、いずれかの方法で「学校の適正配置を進める」ことが望ましいという意見が多数である。

(年齢層別集計)

区分	1 現行の学校配置	2 適正配置を進める	3 地域の事情に配慮	4 一定の基準に基づき	5 その他	無回答
1 20～29歳	6人	11人	31人	3人	2人	1人
2 30～39歳	18人	20人	77人	9人	4人	0人
3 40～49歳	15人	17人	76人	6人	1人	1人
4 50～59歳	28人	24人	73人	14人	1人	1人
5 60～69歳	24人	15人	78人	13人	2人	7人
6 70歳以上	22人	12人	55人	17人	2人	13人



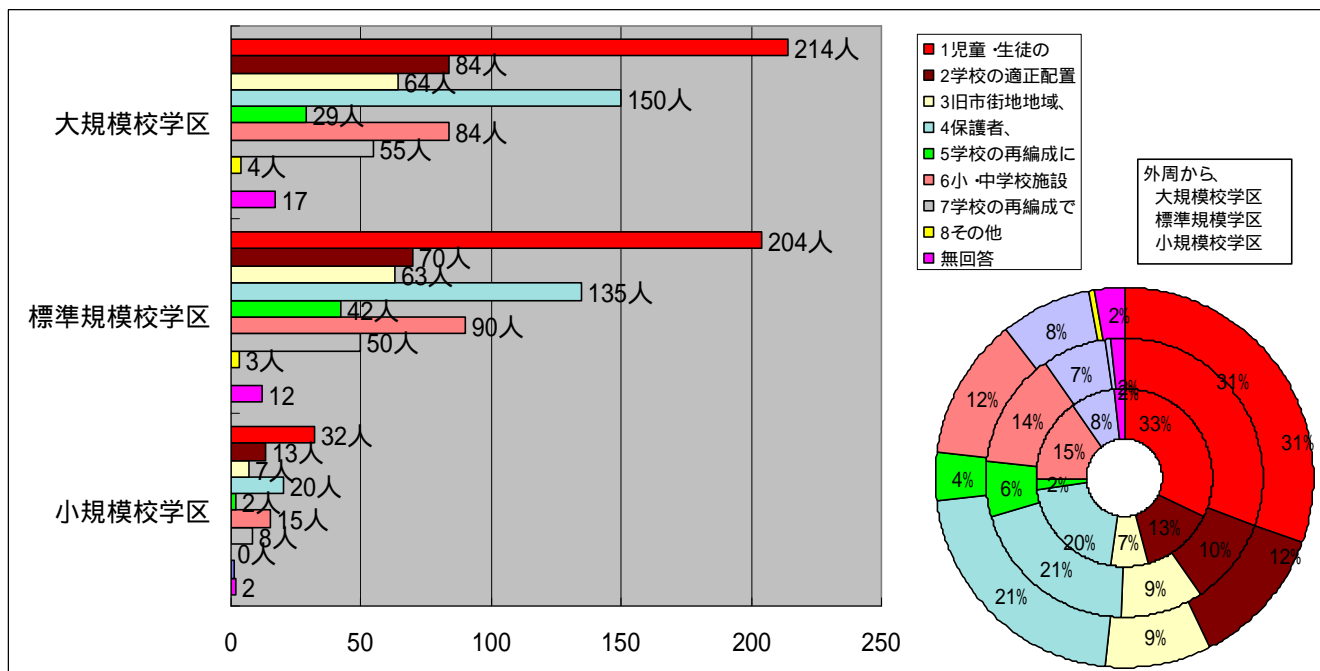
問16の質問で、広島市の今後の学校の適正配置について、年齢層別に回答を整理した。

学校の適正配置については、20歳代、30歳代、40歳代では、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める」が最も多く、続いて「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、その都度、当該学校の適正配置を進める」が多く、次に「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、児童・生徒数が極端に減少したりしても、現行の学校配置を継続する」、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、その計画に基づき学校の適正配置を進める」となっており、50歳代、60歳代では、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める」が最も多く、続いて「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、児童・生徒数が極端に減少したりしても、現行の学校配置を継続する」が多く、次に「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、その都度、当該学校の適正配置を進める」、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、その計画に基づき学校の適正配置を進める」となっており、70歳以上では、「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める」が最も多く、続いて「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、児童・生徒数が極端に減少したりしても、現行の学校配置を継続する」が多く、次に「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、その計画に基づき学校の適正配置を進める」、「複式学級（複数学年が1学級に含まれる）になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、その都度、当該学校の適正配置を進める」となっている。この結果から見れば、いずれの年齢層別においても「現行の学校配置を継続する」という意見もあるものの、いずれかの方法で「学校の適正配置を進める」ことが望ましいという意見が多数である。

問16-3 以下の設問は、問16で2又は3又は4の「学校の適正配置を検討する。」と答えられた方にお聞きします。学校の適正配置を進めるとした場合に、配慮すべき点だと思われるものを3つ選んでください。

(回答者居住地域の小学校区の学校規模別集計)

規模	1 児童生徒の	2 学校の適正配置	3 旧市街地域	4 保護者、	5 学校の再編成に	6 小・中学校施設	7 学校の再編成で	8 その他	無回答
大規模校学区	214人	84人	64人	150人	29人	84人	55人	4人	17人
標準規模校学区	204人	70人	63人	135人	42人	90人	50人	3人	12人
小規模校学区	32人	13人	7人	20人	2人	15人	8人	0人	2人



問16-3の質問で、「学校の適正配置を検討する」という意見を持つ回答者に適正配置を進める場合に配慮すべき点について、回答者居住地域の小学校区の学校規模別に回答を整理した。(3つ回答)

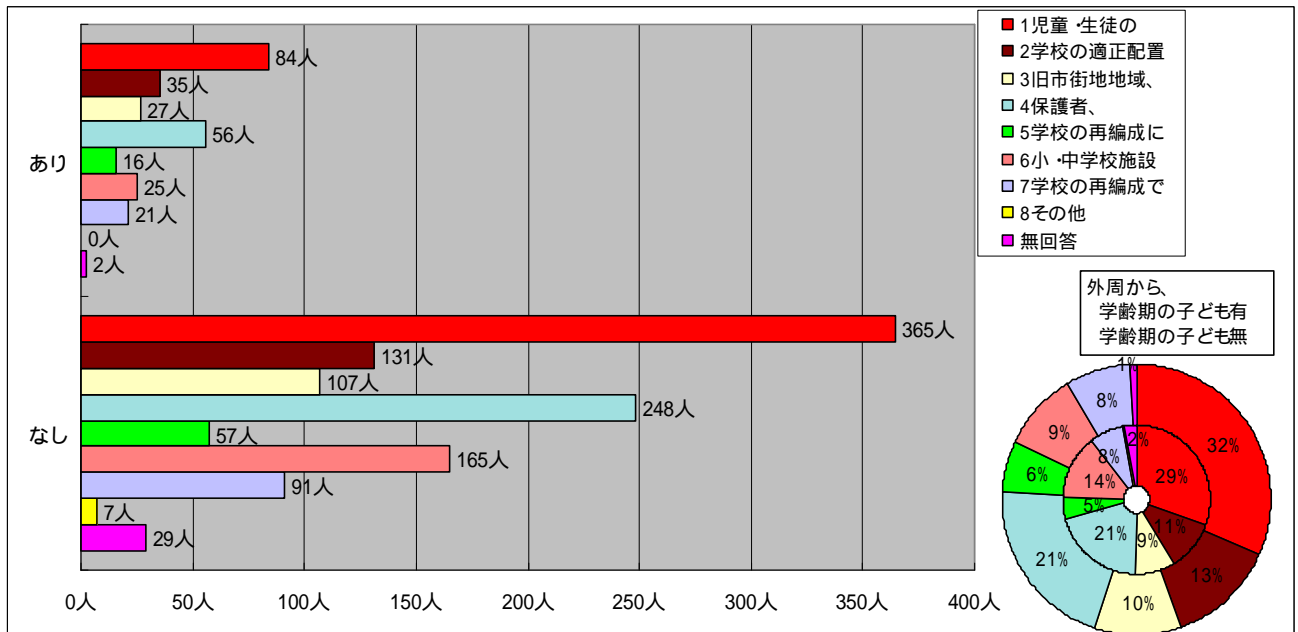
配慮すべき点は、標準規模校・小規模校学区のいずれも「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」が最も多く、続いて「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」が多く、次に「小・中学校施設を一体利用した、9年間を見通した一貫教育の推進」となっている。

大規模校学区では、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」が最も多く、続いて「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」が多く、次に「小・中学校施設を一体利用した、9年間を見通した一貫教育の推進」と「学校の適正配置を進めるまでの児童・生徒同士の事前交流事業や学校行事の共同開催などの教育活動」は同数となっている。

この結果から見れば、いずれの学区においても「学校の適正配置を検討する」場合には、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」に配慮するとともに、「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」をするという意見が多数である。

(学齢期の子どもの有無別集計)

学齢期の子どもの有無	1 児童・生徒の	2 学校の適正配置	3 旧市街地域	4 保護者、	5 学校の再編成に	6 小・中学校施設	7 学校の再編成で	8 その他	無回答
あり	84人	35人	27人	56人	16人	25人	21人	0人	2人
なし	365人	131人	107人	248人	57人	165人	91人	7人	29人
小学校入学前の子どものみいる	47人	20人	12人	33人	12人	15人	8人	3人	2人
高校生以上の子どものみいる	80人	25人	31人	55人	12人	38人	19人	3人	10人
子どもはいない	238人	86人	64人	160人	33人	112人	64人	1人	17人



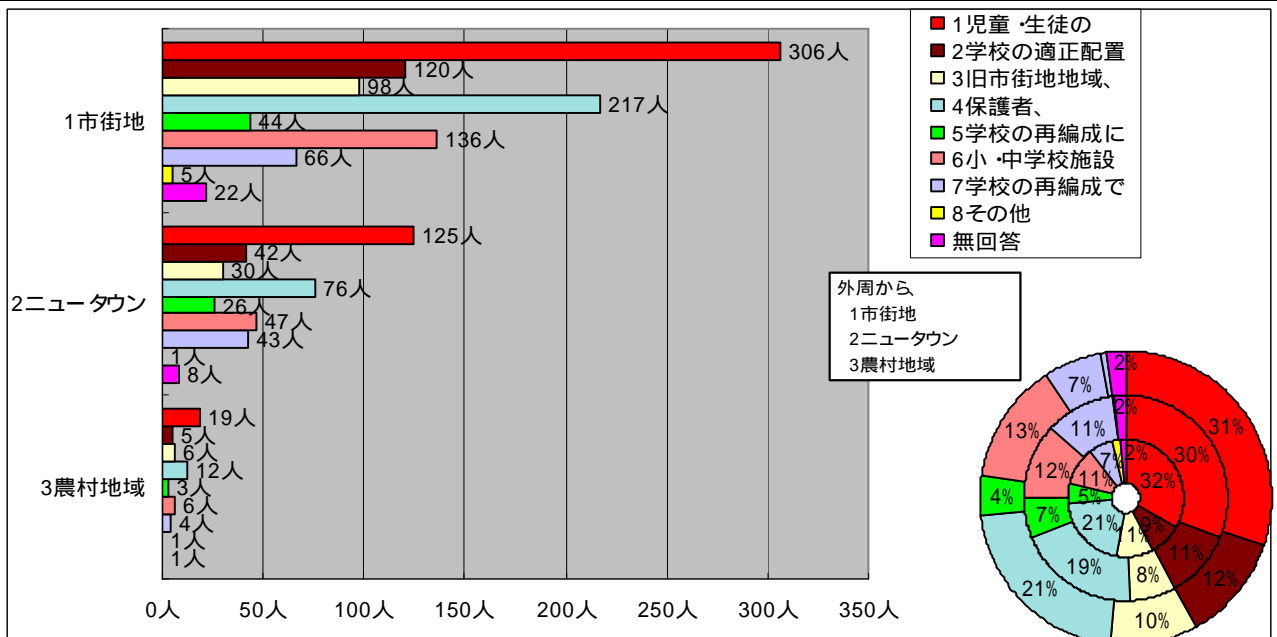
問16-3の質問で、「学校の適正配置を検討する」という意見を持つ回答者に適正配置を進める場合に配慮すべき点について、学齢期の子どもの有無別に回答を整理した。(3つ回答)

学齢期の子ども有の回答者では、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」が最も多く、続いて「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」が多く、次に「学校の適正配置を進めるまでの児童・生徒同士の事前交流事業や学校行事の共同開催などの教育活動」となっているが、学齢期の子ども無の回答者では、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」が最も多く、続いて「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」が多く、次に「小・中学校施設を一体利用した、9年間を見通した一貫教育の推進」となっている

この結果から見れば、学齢期の子ども有無のいずれにおいても「学校の適正配置を検討する」場合には、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」に配慮するとともに、「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」をするという意見が多数である。

(回答者居住地域の小学校区の地域特性別集計)

区分	1 児童 生徒の	2 学校の適 正配置	3 旧市街地 地域、	4 保護者、	5 学校の再 編成に	6 小・中学 校施設	7 学校の再 編成で	8 その他	無回答
1 市街地	306人	120人	98人	217人	44人	136人	66人	5人	22人
2 ニュータウン	125人	42人	30人	76人	26人	47人	43人	1人	8人
3 農村地域	19人	5人	6人	12人	3人	6人	4人	1人	1人



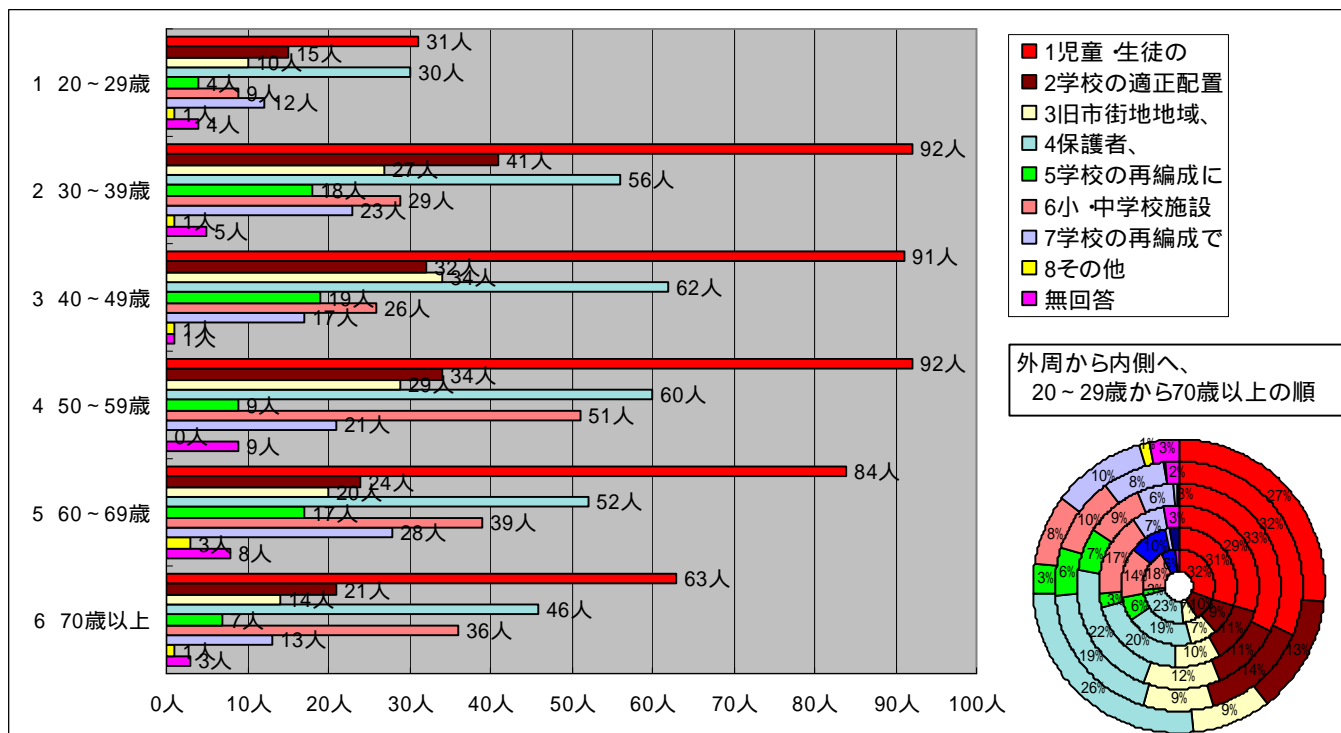
問16-3の質問で、「学校の適正配置を検討する」という意見を持つ回答者に適正配置を進める場合に配慮すべき点について、回答者居住地の小学校区の地域特性別に回答を整理した。(3つ回答)

市街地・ニュータウン・農村地域のいずれにおいても、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」が最も多く、続いて「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」が多く、次に「小・中学校施設を一体利用した、9年間を見通した一貫教育の推進」となっている。

この結果から見れば、いずれの居住地の区分においても「学校の適正配置を検討する」場合には、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」に配慮するとともに、「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」をするという意見が多数である。

(年齢層別集計)

区分	1児童生徒の	2学校の適正配置	3旧市街地地域	4保護者、	5学校の再編成に	6小・中学校施設	7学校の再編成で	8その他	無回答
1 20~29歳	31人	15人	10人	30人	4人	9人	12人	1人	4人
2 30~39歳	92人	41人	27人	56人	18人	29人	23人	1人	5人
3 40~49歳	91人	32人	34人	62人	19人	26人	17人	1人	1人
4 50~59歳	92人	34人	29人	60人	9人	51人	21人	0人	9人
5 60~69歳	84人	24人	20人	52人	17人	39人	28人	3人	8人
6 70歳以上	63人	21人	14人	46人	7人	36人	13人	1人	3人



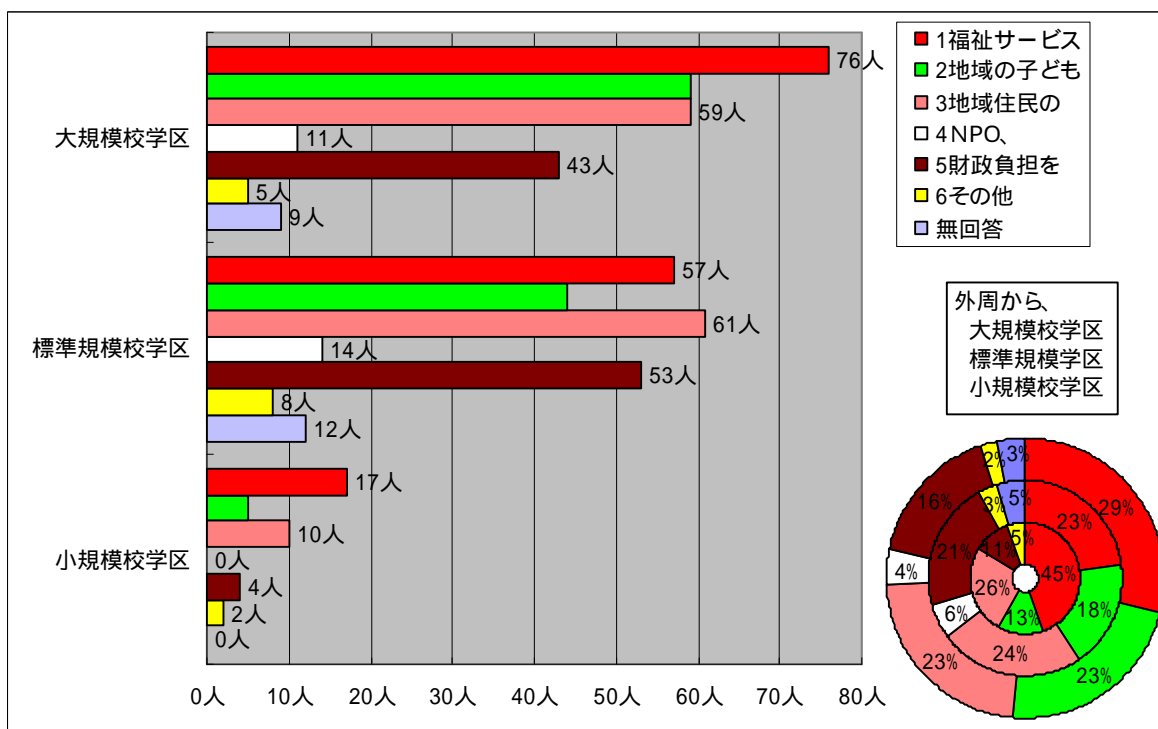
問16-3の質問で、「学校の適正配置を検討する」という意見を持つ回答者に適正配置を進める場合に配慮すべき点について、年齢層別に回答を整理した。(3つ回答)

20歳代、30歳代では、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」が最も多く、続いて「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」が多く、次に「学校の適正配置を進めるまでの児童・生徒同士の事前交流事業や学校行事の共同開催などの教育活動」となっている。40歳代では、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」が最も多く、続いて「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」が多く、次に「旧市街地地域、ニュータウン地域、農村地域など環境が異なる地域の地域性」となっている。50歳代、60歳代、70歳以上では、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」が最も多く、続いて「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」が多く、次に「小・中学校施設を一体利用した、9年間を見通した一貫教育の推進」となっている。この結果から見れば、いずれの年齢層においても「学校の適正配置を検討する」場合には、「児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全」に配慮するとともに、「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」をするという意見が多数である。

問16-5 あなたの住まいの地域において、小・中学校の校舎などが学校再編成で空き施設になった場合、どのように活用することが望ましいとお考えですか、1つお答えください。

(回答者居住地域の小学校区の学校規模別集計)

規模	1福祉サービス	2地域の子ども	3地域住民の	4NPO、	5財政負担を	6その他	無回答
大規模校学区	76人	59人	59人	11人	43人	5人	9人
標準規模校学区	57人	44人	61人	14人	53人	8人	12人
小規模校学区	17人	5人	10人	0人	4人	2人	0人

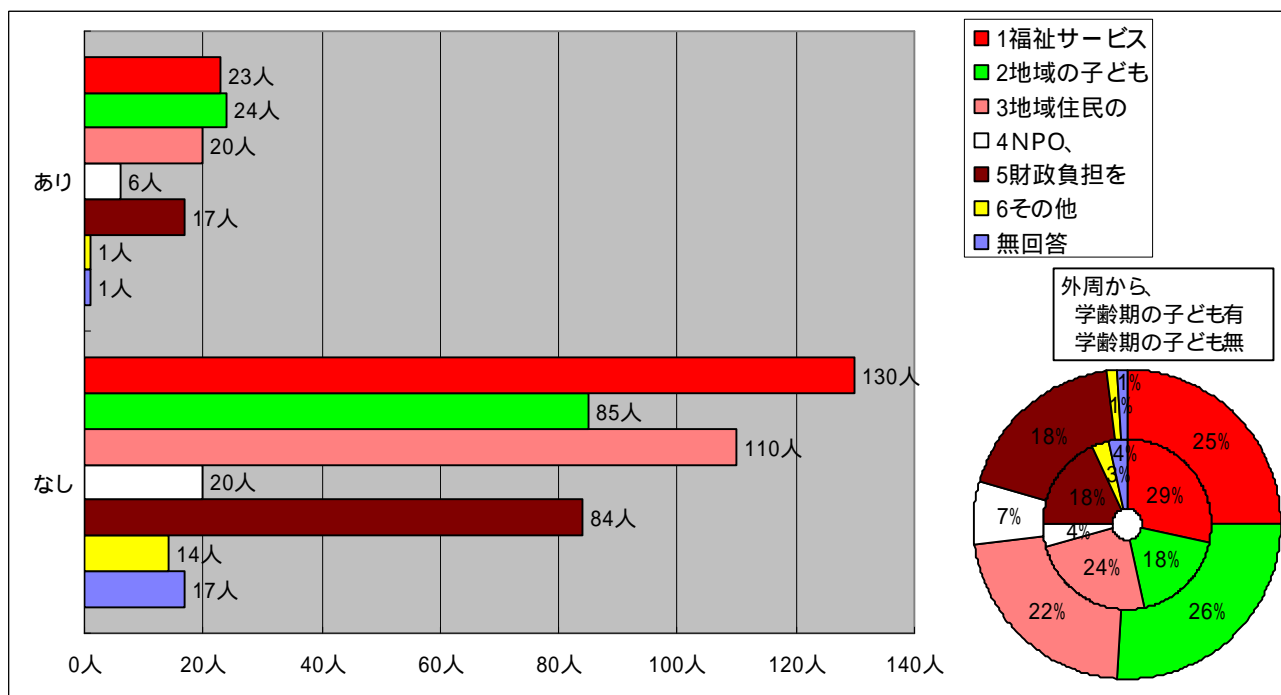


問16-5の質問で、「学校の適正配置を検討する」という意見を持つ回答者に、学校再編成で生じた空き施設の望ましい活用法について、回答者居住地域の小学校区の学校規模別に回答を整理した。

望ましい活用法は、大規模校学区では、「福祉サービスのための施設として利用する」が最も多く、続いて「地域の子どものための施設として利用する」と「地域住民の生涯学習のための施設として利用する」が同数となっている。標準規模校学区では、「地域住民の生涯学習のための施設として利用する」が最も多く、続いて「福祉サービスのための施設として利用する」となっている。小規模校学区では、「福祉サービスのための施設として利用する」が最も多く、続いて「地域住民の生涯学習のための施設として利用する」となっている。

(学齢期の子どもの有無別集計)

学齢期の子どもの有無	1福祉サービス	2地域の子ども	3地域住民の	4NPO、	5財政負担を	6その他	無回答
あり	23人	24人	20人	6人	17人	1人	1人
なし	130人	85人	110人	20人	84人	14人	17人
小学校入学前の子どものみいる	11人	19人	8人	1人	12人	3人	3人
高校生以上の子どものみいる	25人	20人	20人	4人	24人	4人	3人
子どもはいない	94人	46人	82人	15人	48人	7人	11人

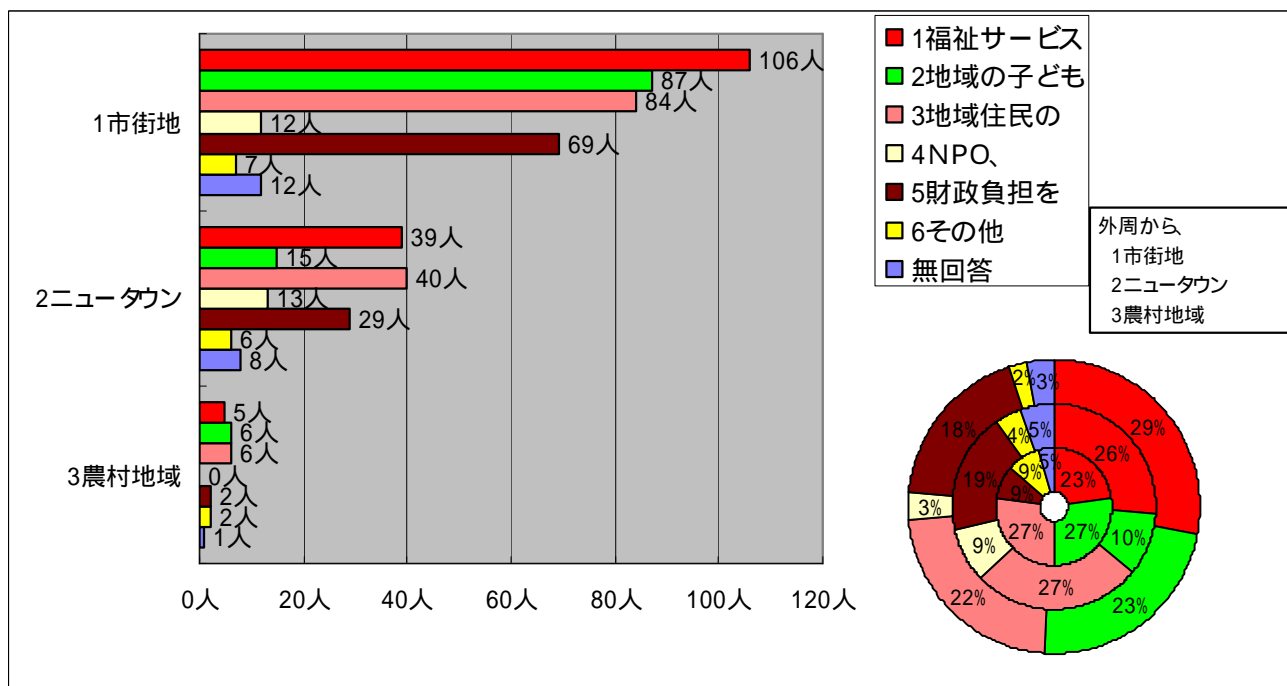


問16-5の質問で、「学校の適正配置を検討する」という意見を持つ回答者に、学校再編成で生じた空き施設の望ましい活用法について、学齢期の子どもの有無別に回答を整理した。

望ましい活用法は、学齢期の子ども有の回答者では、「地域の子どものための施設として利用する」が最も多く、続いて「福祉サービスのための施設として利用する」となっているが、学齢期の子ども無の回答者では、「福祉サービスのための施設として利用する」が最も多く、続いて「地域住民の生涯学習のための施設として利用する」となっている。

(回答者居住地域の小学校区の地域特性格集計)

区分	1福祉サービス	2地域の子ども	3地域住民の	4NPO	5財政負担を	6その他	無回答
1市街地	106人	87人	84人	12人	69人	7人	12人
2ニュータウン	39人	15人	40人	13人	29人	6人	8人
3農村地域	5人	6人	6人	0人	2人	2人	1人

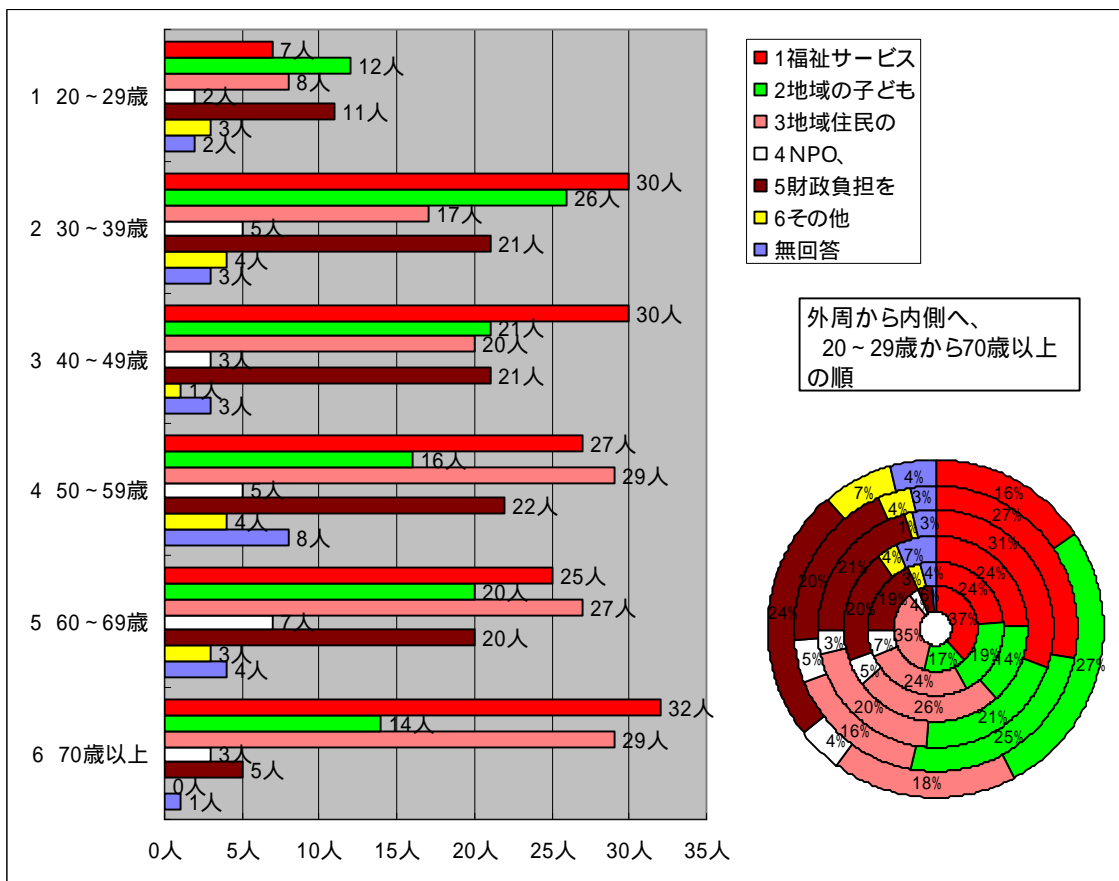


問16-5の質問で、「学校の適正配置を検討する」という意見を持つ回答者に、学校再編成で生じた空き施設の望ましい活用法について、回答者居住地域の小学校区の地域特性別に回答を整理した。

望ましい活用法は、市街地では、「福祉サービスのための施設として利用する」が最も多く、続いて「地域の子どものための施設として利用する」となっているが、ニュータウンでは、「地域住民の生涯学習のための施設として利用する」が最も多く、続いて「福祉サービスのための施設として利用する」となっている。また、農村地域では、「福祉サービスのための施設として利用する」が最も多く、続いて「地域の子どものための施設として利用する」と「地域住民の生涯学習のための施設として利用する」が同数となっている。

(年齢層別集計)

区分	1福祉サービス	2地域の子ども	3地域住民の	4NPO、	5財政負担を	6その他	無回答
1 20～29歳	7人	12人	8人	2人	11人	3人	2人
2 30～39歳	30人	26人	17人	5人	21人	4人	3人
3 40～49歳	30人	21人	20人	3人	21人	1人	3人
4 50～59歳	27人	16人	29人	5人	22人	4人	8人
5 60～69歳	25人	20人	27人	7人	20人	3人	4人
6 70歳以上	32人	14人	29人	3人	5人	0人	1人



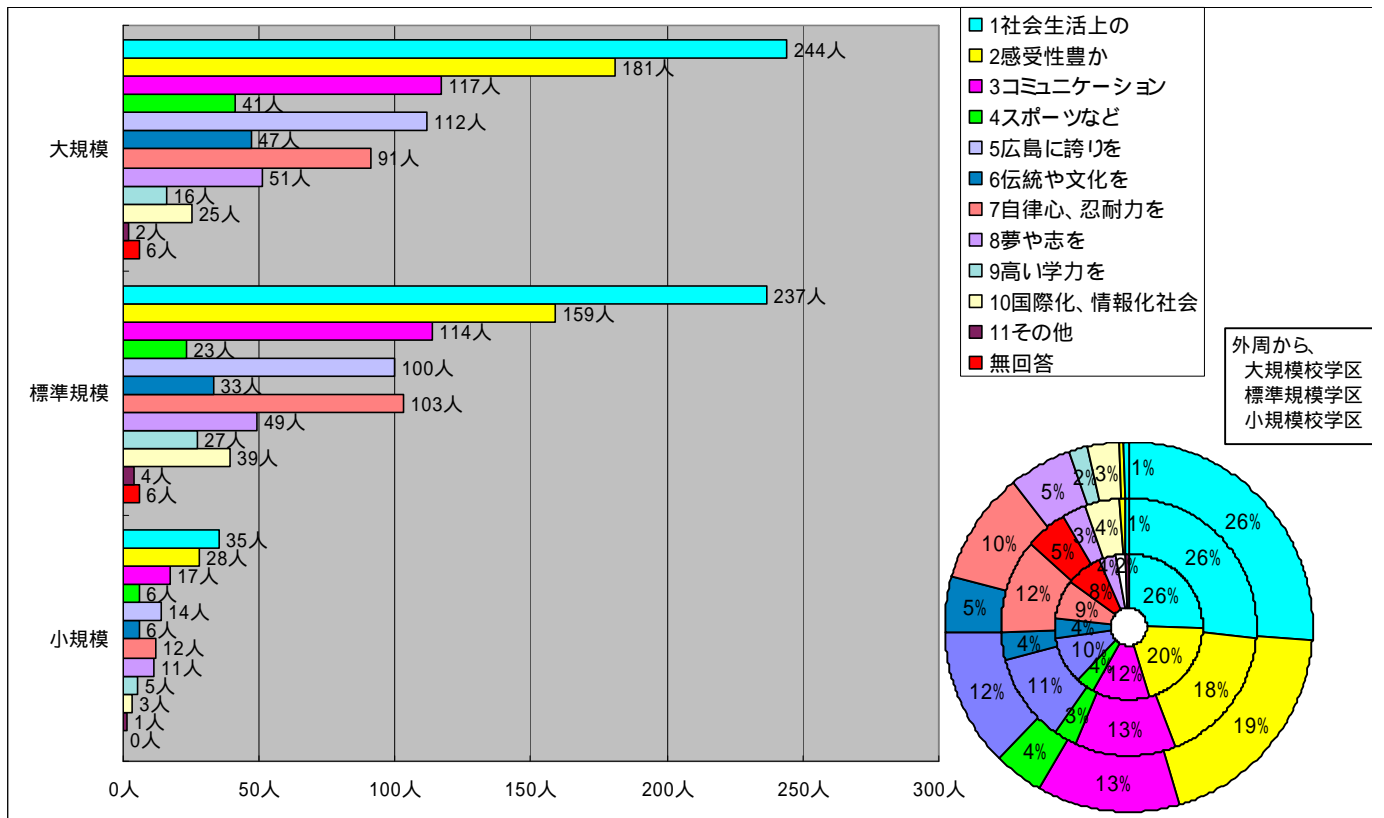
問16-5の質問で、「学校の適正配置を検討する」という意見を持つ回答者に、学校再編成で生じた空き施設の望ましい活用法について、年齢層別に回答を整理した。

望ましい活用法は、20歳代では、「地域の子どものための施設として利用する」が最も多く、続いて「財政負担を軽減するため、売却処分する」となっている。30歳代では、「福祉サービスのための施設として利用する」が最も多く、続いて「地域の子どものための施設として利用する」となっている。40歳代では「福祉サービスのための施設として利用する」が最も多く、続いて「地域の子どものための施設として利用する」と「財政負担を軽減するため、売却処分する」が同数となっている。50歳代、60歳代では、「地域住民の生涯学習のための施設として利用する」が最も多く、続いて「福祉サービスのための施設として利用する」となっている。70歳以上では、「福祉サービスのための施設として利用する」が最も多く、続いて「地域住民の生涯学習のための施設として利用する」となっている。

問17 これからの広島市の学校は子どもをどのような人に育てていくことが大切か、重要と考えられるものを3つ選んでください。

(回答者居住地の小学校区の学校規模別集計)

規模	守り、 のルールを 社会生活上 を大切に	感受性豊か 自分のよさ を大切に	コミュニケーション 能力を 身につけ	鍛えた頑強 な身体を持 ち、	広島に誇り を持ち、人 間の尊厳、	伝統や文化 を尊重し	自律心、忍 耐力を	夢や志を持 ち続ける	高い学力を 身につけ	国際化、情 報化社会	その他	無回答
大規模	244人	181人	117人	41人	112人	47人	91人	51人	16人	25人	2人	6人
標準規模	237人	159人	114人	23人	100人	33人	103人	49人	27人	39人	4人	6人
小規模	35人	28人	17人	6人	14人	6人	12人	11人	5人	3人	1人	0人

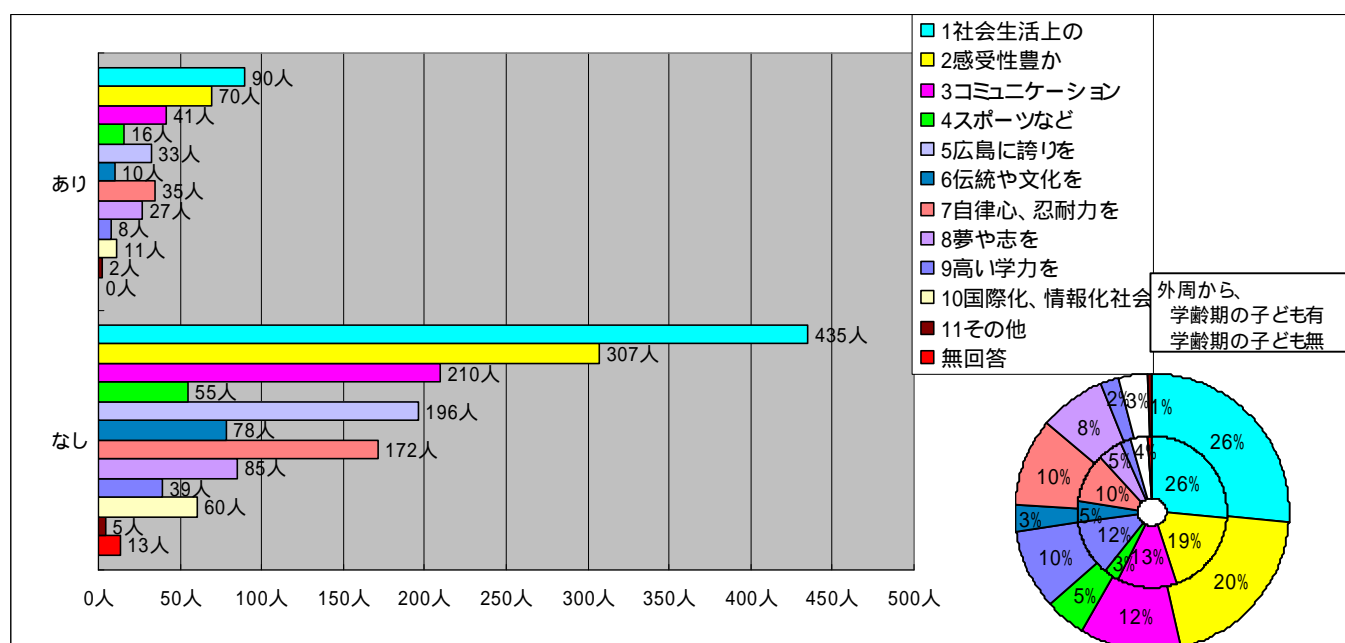


問17の質問で、望ましい子どもの将来像について回答者居住地の小学校区の学校規模別に回答を整理した。(3つ回答)

望ましい子どもの将来像は、大規模校・標準規模校・小規模校学区のいずれも「社会生活上のルールを守り、善悪を判断できる力を身につけた人」が最も多く、続いて「感受性豊かで、自分のよさを大切にするとともに、互いの違い(ありのまま)を認めるやさしさ、思いやりがある心豊かな人」が多く、次に「コミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係をつくり出せる人」となっている。

(学齢期の子どもの有無別集計)

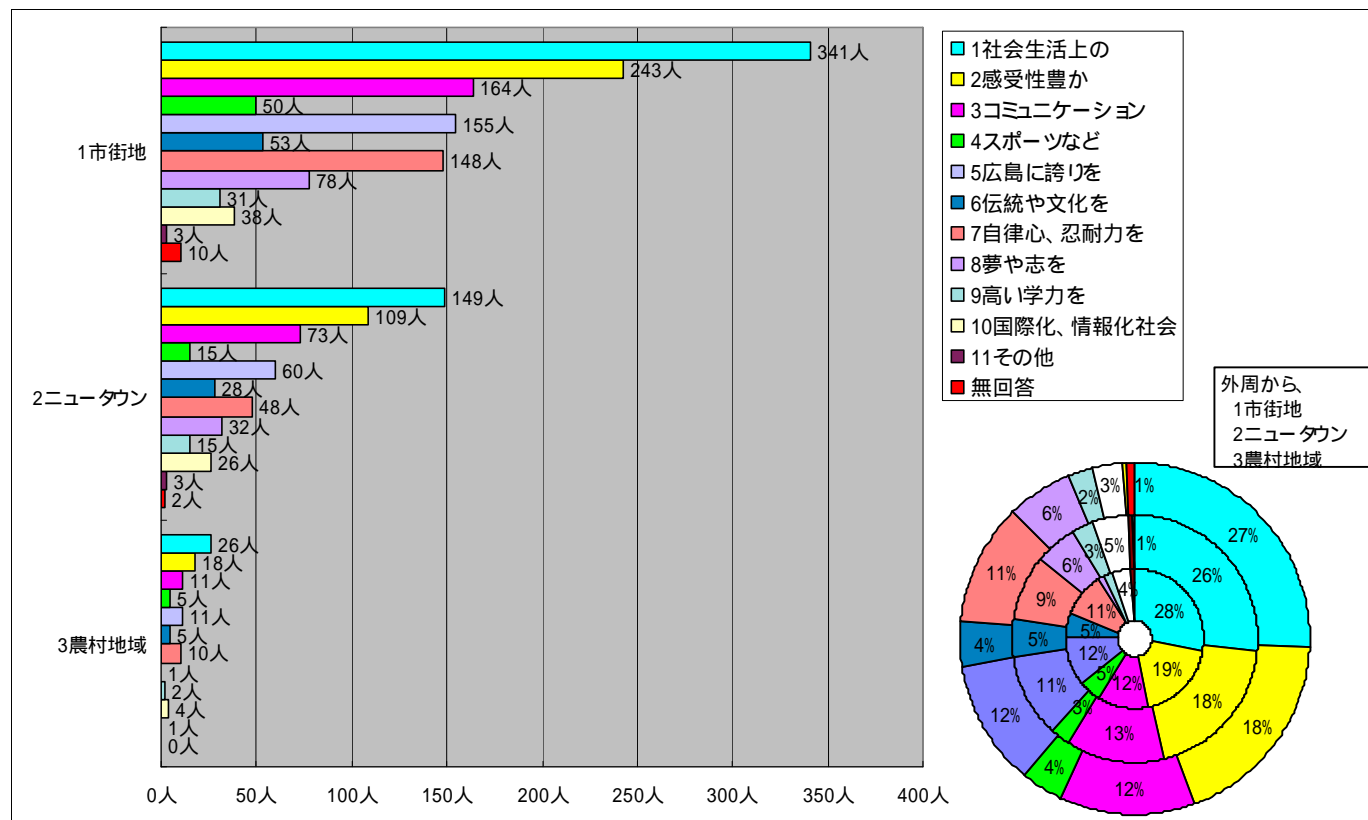
学齢期の子どもの有無	社会生活上のルールを守り、	感受性豊か自分のよさを大切に	コミュニケーション能力を身につけ	スポーツなどで鍛えた頑強な身体を持ち、	広島に誇りを持ち、人間の尊厳	伝統や文化を尊重し	自律心、忍耐力を	夢や志を持ち続ける	高い学力を身につけ	国際化、情報化社会	その他	無回答
あり	90人	70人	41人	16人	33人	10人	35人	27人	8人	11人	2人	0人
なし	435人	307人	210人	55人	196人	78人	172人	85人	39人	60人	5人	13人
2 小学校入学前の子どもみいる	53人	34人	28人	3人	18人	7人	21人	13人	4人	0人	0人	2人
3 高校生以上の子どもみいる	92人	70人	50人	11人	50人	27人	37人	13人	8人	2人	2人	1人
4 子どもはいない	290人	203人	132人	41人	128人	44人	114人	59人	27人	3人	3人	10人



問17の質問で、望ましい子どもの将来像について学齢期の子どもの有無別に回答を整理した。(3つ回答)
 望ましい子どもの将来像は、学齢期の子どもの有無にかかわらず、「社会生活上のルールを守り、善悪を判断できる力を身につけた人」が最も多く、続いて「感受性豊かで、自分のよさを大切にするとともに、互いの違い(ありのまま)を認めるやさしさ、思いやりがある心豊かな人」が多く、「コミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係をつくり出せる人」となっている。

(回答者居住地の小学校区の地域特性別集計)

区分	社会生活上のルールを守り、	感受性豊か自分のよさを大切に	コミュニケーション能力を身につけ	スポーツなどで鍛えた頑強な身体を持ち、	広島に誇りを持ち、人間の尊厳	伝統や文化を尊重し	自律心、忍耐力を	夢や志を持ち続ける	高い学力を身につけ	国際化、情報化社会	その他	無回答
1 市街地	341人	243人	164人	50人	155人	53人	148人	78人	31人	38人	3人	10人
2 ニュータウン	149人	109人	73人	15人	60人	28人	48人	32人	15人	26人	3人	2人
3 農村地域	26人	18人	11人	5人	11人	5人	10人	1人	2人	4人	1人	0人

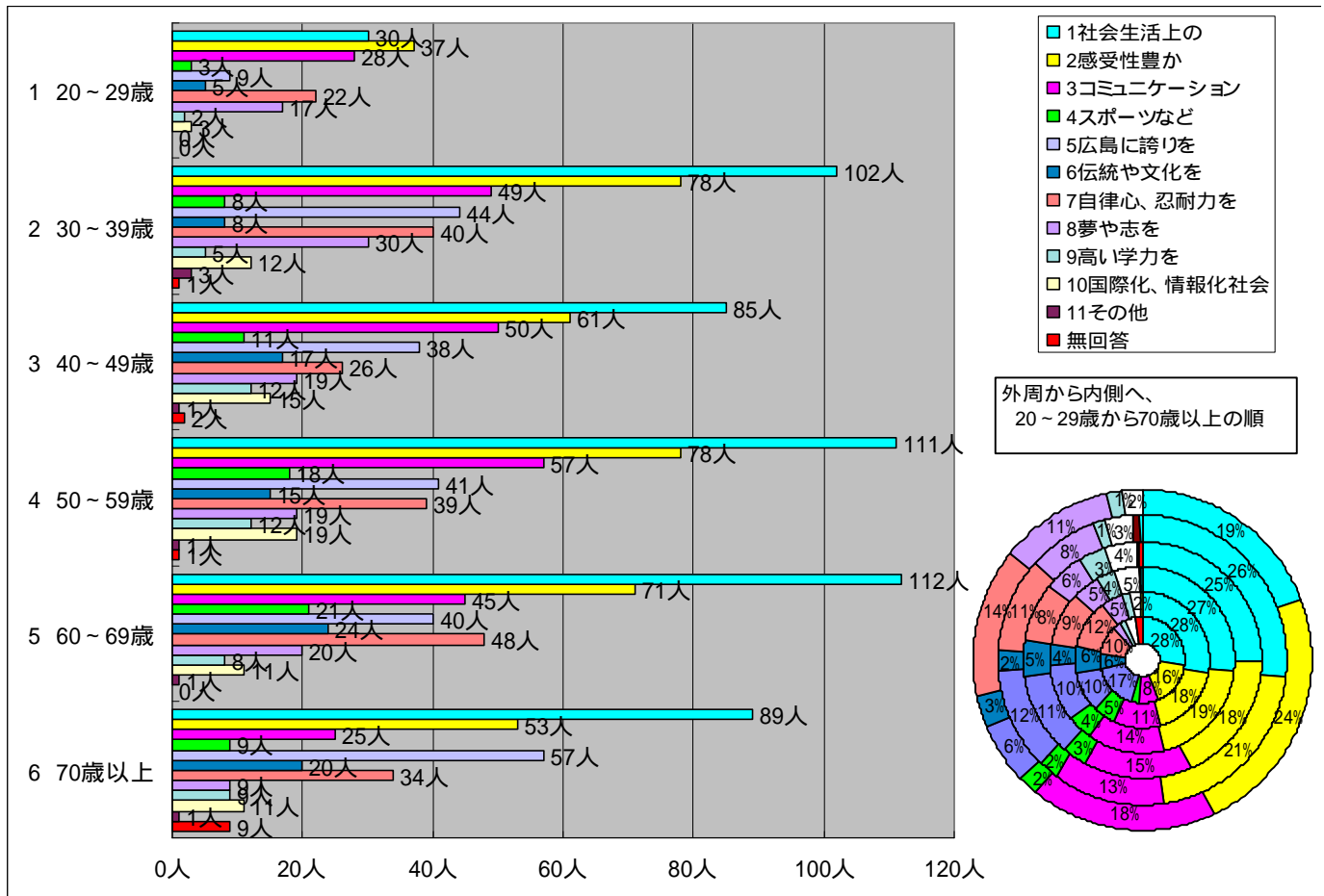


問17の質問で、望ましい子どもの将来像について回答者居住地の小学校区の地域特性別に回答を整理した。(3つ回答)

望ましい子どもの将来像は、市街地・ニュータウン・農村地域のいずれも「社会生活上のルールを守り、善悪を判断できる力を身につけた人」が最も多く、続いて「感受性豊かで、自分のよさを大切にするとともに、互いの違い(ありのまま)を認めるやさしさ、思いやりがある心豊かな人」が多く、次に「コミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係をつくり出せる人」となっている。

(年齢層別集計)

区分	社会生活上のルールを守り、	感受性豊か自分のよさを大切に	コミュニケーション能力を身につけ	スポーツなどで鍛えた頑強な身体を持ち	人間の尊厳、広島に誇りを持ち、	伝統や文化を尊重し	自律心、忍耐力を	夢や志を持ち続ける	高い学力を身につけ	国際化、情報化社会	その他	無回答
1 20～29歳	30人	37人	28人	3人	9人	5人	22人	17人	2人	3人	0人	0人
2 30～39歳	102人	78人	49人	8人	44人	8人	40人	30人	5人	12人	3人	1人
3 40～49歳	85人	61人	50人	11人	38人	17人	26人	19人	12人	15人	1人	2人
4 50～59歳	111人	78人	57人	18人	41人	15人	39人	19人	12人	19人	1人	1人
5 60～69歳	112人	71人	45人	21人	40人	24人	48人	20人	8人	11人	1人	0人
6 70歳以上	89人	53人	25人	9人	57人	20人	34人	9人	9人	11人	1人	9人



問17の質問で、望ましい子どもの将来像について年齢層別に回答を整理した。(3つ回答)
 望ましい子どもの将来像は、20歳代では、「感受性豊かで、自分のよさを大切にするとともに、互いの違い(ありのまま)を認めるやさしさ、思いやりがある心豊かな人」が最も多く、続いて「社会生活上のルールを守り、善悪を判断できる力を身につけた人」が多く、次に「コミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係をつくり出せる人」となっている。30歳代、40歳代、50歳代では、「社会生活上のルールを守り、善悪を判断できる力を身につけた人」が最も多く、続いて「感受性豊かで、自分のよさを大切にするとともに、互いの違い(ありのまま)を認めるやさしさ、思いやりがある心豊かな人」が多く、次に「コミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係をつくり出せる人」

の順になっている。60歳代では、「社会生活上のルールを守り、善悪を判断できる力を身につけた人」が最も多く、続いて「感受性豊かで、自分のよさを大切にするとともに、互いの違い(ありのまま)を認めるやさしさ、思いやりがある心豊かな人」が多く、次に「自律心、忍耐力を身につけた人」となっている。70歳以上では、「社会生活上のルールを守り、善悪を判断できる力を身につけた人」が最も多く、続いて「広島に誇りを持ち、人間の尊厳、生命の尊さを自覚し、世界平和に貢献できる人」が多く、次に「感受性豊かで、自分のよさを大切にするとともに、互いの違い(ありのまま)を認めるやさしさ、思いやりがある心豊かな人」となっている。

．調査結果からみる市民の意識

今回の市民アンケートでは、市内各区からほぼ人口に比例して、各年齢層からの回答を得ることができた。また、サンプリング誤差も3.6%と社会調査の一般的なサンプリング調査において望ましいとされている誤差5%を下回っており、広島市立小・中学校の適正配置に関する市民の意識の全体的な傾向を把握するうえでは、有効なアンケートであるといえる。

アンケート結果の分析から、市民の意識をまとめると、次のようなことがいえる。

1．1学級当たりの児童生徒数は、「1学級当たり21～30人」が望ましいとする市民が最も多い。

小学校では、回答者全体の49.6%が「1学級当たり21～30人」を、31.0%が「1学級当たり31～35人」を選択しているが、この傾向は、回答者居住地域の小学校区の学校規模別、学齢期の子どもの有無別、回答者居住地域の小学校区の地域特性別、年齢層別においても同様である。

中学校では、回答者全体の41.1%が「1学級当たり21～30人」を、36.1%が「1学級当たり31～35人」を選択しているが、この傾向は、年齢層別においては若干違いが見られるが、回答者居住地域の小学校区の学校規模別、学齢期の子どもの有無別、回答者居住地域の小学校区の地域特性別においては同様である。

2．1学年当たりの学級数は、小学校では「2～3学級（1学校当たり12～18学級）」、中学校では「4～6学級（1学校当たり12～18学級）」が望ましいとする市民が最も多い。

小学校では、回答者全体の62.4%が「1学年当たり2～3学級」を、28.7%が「1学年当たり4～5学級」を選択しているが、この傾向は、回答者居住地域の小学校区の学校規模別、学齢期の子どもの有無別、回答者居住地域の小学校区の地域特性別、年齢層別においても同様である。

中学校では、回答者全体の63.6%が「1学年当たり4～6学級」を、25.9%が「1学年当たり2～3学級」を選択しているが、この傾向は、回答者居住地域の小学校区の学校規模別、学齢期の子どもの有無別、回答者居住地域の小学校区の地域特性別、年齢層別においても同様である。

3．児童生徒の通学時間、通学距離、通学方法は、小学生は「徒歩」で、「30分以内」、「2キロメートル以内」、中学生は「徒歩」または「自転車」で、「30分以内」、「4キロメートル以内」が望ましいとする市民が多い。

小学校では、回答者全体の58.7%が「30分以内」を、49.1%が「2キロメートル以内」を、94.3%が「徒歩」を選択している。

中学校では、回答者全体の52.6%が「30分以内」を、41.0%が「4キロメートル以内」を、86.5%が「徒歩」または61.3%が「自転車」を選択している。

4. 学校の適正配置を検討するに当たっては、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進めることが望ましいとする市民が最も多い。

学校の適正配置については、回答者全体の55.6%が「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、一定の基準で全市についての計画を立てた上で、地域の事情に配慮しつつ学校の適正配置を進める」を選択している。これは、回答者居住地域の小学校区の学校規模別、学齢期の子どもの有無別、回答者居住地域の小学校区の地域特性別、年齢層別においても同様である。

「現行の学校配置を継続する」という意見も16.2%あるものの、何らかの形で「学校適正配置を進める」という意見が78.5%と8割近くを占めている。

5. 学校の適正配置を進めるとした場合には、「児童生徒の通学（時間、距離、方法）とその安全」及び「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」に対して十分に配慮すべきとする市民が多い。

学校の適正配置については、回答者全体の65.0%が「児童生徒の通学（時間、距離、方法）とその安全」を、44.4%が「保護者、地域住民、地域団体との十分な協議」を配慮すべき点として選択している。この傾向は、回答者居住地域の小学校区の学校規模別、学齢期の子どもの有無別、回答者居住地域の小学校区の地域特性別、年齢層別においても同様である。

6. これからの広島市の子どもには、社会生活上のルールを守り、善悪を判断できる力、互いの違いを認めるやさしさ、思いやり及び良好な人間関係をつくり出せるコミュニケーション能力等が身につくよう育てていくことが望ましいとする市民が多い。

望ましい子どもの将来像については、回答者全体の75.4%が「社会生活上のルールを守り、善悪を判断できる力を身につけた人」を、54.1%が「感受性豊かで、自分のよさを大切にするとともに、互いの違い（ありのまま）を認めるやさしさ、思いやりがある心豊かな人」を、36.1%が「コミュニケーション能力を身につけ、良好な人間関係をつくり出せる人」を選択している。この傾向は、年齢層別においては若干違いが見られるが、回答者居住地域の小学校区の学校規模別、学齢期の子どもの有無別、回答者居住地域の小学校区の地域特性別においては同様である。